

言語教育履修生のための ポートフォリオ

大学	
学部	
学科（コース）	
学籍番号	
氏名	

目 次

言語教育履修生のためのポートフォリオについて.....	2
1. 目的	2
2. 利用期間	2
3. 構成	2
4. 利用方法	3
5. 教職担当の先生方へ	3
自分自身について.....	5
1. 過去の英語学習経験	5
2. 教職課程に対する期待	5
3. 教育実習に臨む前の期待と不安	6
4. 教師の資質能力	6
振り返りのための授業力自己評価項目リスト.....	8
I 教育環境	8
A.教育課程/8、B.目標とニーズ/8、C.語学教師の役割/8	
D.組織の設備と制約/9	
II 教授法	10
A.スピーキング活動/10、B.ライティング活動/11、C.リスニング活動/11	
D.リーディング活動/12、E.文法/13、F.語彙/13、G.文化/14	
III 教授資料の入手先	14
IV 授業計画	15
A.学習目標の設定/15、B.授業内容/15、C.授業展開/16	
V 授業実践	17
A.レッスン・プランの使用/17、B.内容/17、C.生徒とのインタラクション/17、	
D.授業運営/18、E.教室での言語/18	
VI 自立学習	18
A.学習者の自律/18、B.宿題/19、C.バーチャル学習環境/19	
VII 評価	19
A.測定具の考案/19、B.評価/20、C.言語運用/20、D.国際理解/20、	
E.誤答分析/20	
個人学習・実践記録表.....	21
① 学習・実践の記録	21
② 継続的な学習・実践の記録	24
資料 J-POSTL:授業力自己評価項目リスト 100 項目の解説.....	27
Glossary	67

言語教育履修生のためのポートフォリオについて

1. 目的

言語教育履修生のためのポートフォリオは、履修学生が、教職課程や実習先で学んだことを継続的に記録し、自分の成長に役立てるためのものです。成長を記録し振り返ること、自己の長所や短所に気づき、教職に対する気づきや学びが促されます。

2. 利用期間

本ポートフォリオを受け取ってから、教育実習を終える4年次の秋まで利用してください。

3. 構成

言語教育履修生のためのポートフォリオは次の3つの内容で構成されています。

(1) 自分自身について

本ポートフォリオを受け取ってから教育実習前までに、それまでの英語学習経験、教職課程や教育実習に対する期待や不安を書いてください。また、英語教師として大切な資質能力について考えてみましょう。

(2) 振り返りのための授業力自己評価項目リスト（Can-do 形式による）

このポートフォリオを使って、自己の教職課程での学習や実習での教育実践を振り返ってください。ポートフォリオは、全7分野（Ⅰ 教育環境、Ⅱ 教授法、Ⅲ 教授資料の入手先、Ⅳ 授業計画、Ⅴ 授業実践、Ⅵ 自立学習、Ⅶ 評価）、計100項目で構成されています。振り返りは、少なくとも実習終了後の事後指導までに3回行います。振り返る時期は、例えばポートフォリオを受け取った時、教育実習前（例：3年次の学年末）、教育実習後（例：4年次の秋）です。その後、「教育実習演習」終了時や教職に就いてからも授業力を自己評価するために活用することができます。

本ポートフォリオの最後に「Glossary」をつけました。授業力自己評価項目中の用語を理解するために参照してください。

授業力自己評価の記入方法

- ① 授業力自己評価項目リストの冒頭にある表に、自己評価を記入した日と使用した色を書き入れます。

表の記入例（記入日：年／月／日）

自己評価記入日	2012/9/4	2013/4/15	2013/7/10			
使用した色	黄	青	緑			

- ②各項目の下には、細長い矢印ブロックがあります。各項目に対して自らの到達度に対する意識を5段階（5-できる、4-まあまあできる、3-どちらともいえない、2-あまりよくでき

ない、1-できない)で判断して下さい。5段階の中で該当する箇所を塗りつぶしてもよいし、左寄り、中央、あるいは右寄りにしてもよいでしょう。記入例のように、以前の自己評価よりも下がる場合もあります。また、学習や経験をしていない項目は無理に回答しなくても結構です。

実施日の色別による自己評価記入例



(3) 個人学習・実践記録表（英語の学習、英語の授業実践に関わるもの）

本ポートフォリオを受け取ってから教育実習終了までの期間、以下の 2 つの分野について記録してください。授業力自己評価項目について、自分の判断の根拠や、判断が適切であるか否かを示すことができます。

①学習・実践の記録

実施日、学習・実践事項、学習・実践内容の概要及びコメント

② 継続的な学習・実践の記録

①の他に継続的な学習・実践がある場合のみ記入

4. 利用方法

①記録する

- ・ 教職課程履修中に、必要に応じて「個人学習・実践記録表」に自己の学習や教育実践を記録しておきましょう。

② 振り返る

- ・ 教職課程履修中に、少なくとも 3 回は授業力自己評価項目で自分自身を振り返り、自己の課題について考える習慣をつけましょう。
- ・ 教職履修課程中に、自己分析の資料として活用しましょう。
- ・ 教職に就いた後でも、自分の成長のための振り返りの道具として、このポートフォリオを利用し続けましょう。

③ 相談する

- ・ 教職担当や教育実習先の先生にポートフォリオを見てもらい、適切な助言を受ける機会を作りましょう。
- ・ 教職のあり方や授業実践などについて、学生同士で話し合う機会を持ち、その際にポートフォリオを活用しましょう。

5. 教職担当の先生方へ

本ポートフォリオは全てを利用する必要はありません。各大学のカリキュラムに合わせて、利用できる箇所を柔軟にお考えください。

(1)本ポートフォリオの利用目的

本ポートフォリオの利用目的は主に以下の5点です。

- ・英語授業力の構成要素を明らかにする
- ・英語授業力を支える知識・技術を振り返ることを促す
- ・履修生の議論を促す
- ・履修生同士の自己評価を促す
- ・成長を記録する手段を提供する

(2) 利用例

①

利用場面：教職科目における講義

利用箇所：自分自身についての「過去の学習経験」

利用方法：授業で履修生同士の議論のテーマとして利用し、なぜある教え方は良かったのか、また良くなかったのか振り返り分析する。

②

利用場面：教職科目における模擬授業後

利用箇所：振り返りのための授業力自己評価項目リストの「授業計画」と「授業実践」

利用方法：模擬授業後、履修生同士で can-do 記述文の分析を行ったり、実践を支える理論について議論をする。

③

利用場面：教育実習中

利用箇所：振り返りのための授業力自己評価項目リストの「授業計画」

利用方法：教壇実習前に、can-do 記述文を参考に、授業のねらいや目的を設定する。

④

利用場面：教育実習中

利用箇所：振り返りのための授業力自己評価項目リストの「授業実践」

利用方法：教壇実習後、can-do 記述文を基に、履修生が指導教員と授業を振り返る。

⑤

利用場面：教職課程履修開始から終了時

利用箇所：個人学習・実践記録表

利用方法：履修生の成長を示す証拠資料の一部として利用する。

⑥

利用場面：教職課程履修開始から終了時

利用箇所：振り返りのための授業力自己評価項目リスト

利用方法：振り返りのための授業力自己評価項目リストにより、履修生の英語授業力に対する認識を確認することで、大学の英語教職課程プログラムの利点と問題点を明らかにする。

自分自身について

記入日： 年 月 日（ 曜日）

1. 過去の英語学習経験

これまで英語を教わってきたことを振り返り、良かった、あるいは良くなかったと思う教え方や授業内容等を自由に記述してください。

a) 良かった内容

b) 良くなかった内容

2. 教職課程に対する期待

教職課程（教科教育法の授業や教育実習など）を通して何ができるようになりたいですか。

3. 教育実習に臨む前の期待と不安

a) 教育実習の指導で楽しみにしていることは何ですか。

b) 教育実習の指導で不安に思っていることは何ですか。

4. 教師の資質能力

4.1 英語教師として大切な資質能力は何だと思いますか。次の例のあとに続けて、書き加えてみましょう。また、それぞれの項目はどれぐらい重要ですか。重要度を5段階（5-重要である、4-まあまあ重要である、3-どちらともいえない、2-あまり重要でない、1-重要ではない）で判断してください。

	項 目	重要度				
1	他の教員と協力することができる	5	4	3	2	1
2	自分の職務を理解し遂行することができる	5	4	3	2	1
3	文法を説明することができる	5	4	3	2	1
4		5	4	3	2	1
5		5	4	3	2	1
6		5	4	3	2	1
7		5	4	3	2	1
8		5	4	3	2	1
9		5	4	3	2	1
10		5	4	3	2	1

4.2 以下の例を参考にして、履修者同士で、各項目について話し合ってみましょう。

①例えば「文法を説明することができる」に対して、あなたが「5－重要である」と判断した場合、どうして重要だと考えるのかペアあるいはグループのメンバーに具体例を出しながら説明をしてみましょう。

②次に「文法を説明することができる」とはどのような能力なのか、ペアまたはグループで話し合しましょう（例：教員が文法解説を日本語あるいは英語でできる、生徒に用例を与え分析させることができるなど）。

～振り返りの重要性～

「言語教育履修生のためのポートフォリオ」では、ただ質問に回答するだけではなく、「4.教師の資質能力」のように自らの考えや行動を振り返ることが大切です。

次の「振り返りのためのチェックリスト」においても、与えられた質問に対して、それぞれの文の意味をよく考え、そのうえで、教職課程で学習した内容や模擬授業を自ら振り返ることで自律した教員へ成長していくことを目指してください。そして、教職担当や教育実習先の先生あるいは履修生同士でそれぞれの考えを共有し、話し合うこと（振り返ること）で教授法などについて多角的に考える機会を作ってください。

皆さんが自律した教員へ成長するためには是非このポートフォリオを役立てていただきたいと思います。

振り返りのための授業力自己評価項目リスト

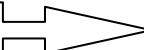
各項目に対して自らの到達度に対する意識を5段階（5-できる、4-まあまあできる、3-どちらともいえない、2-あまりよくできない、1-できない）で判断して下さい。

自己評価記入日						
使用した色						

I 教育環境

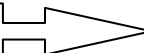
A. 教育課程

1. 学習指導要領に記述された内容を理解できる。

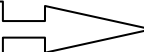
1	2	3	4	5	
---	---	---	---	---	---

B. 目標とニーズ

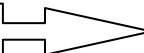
2. 外国語を学習することの意味を理解できる。

1	2	3	4	5	
---	---	---	---	---	--

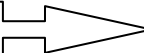
3. 学習指導要領と生徒のニーズに基づいて到達目標を考慮できる。

1	2	3	4	5	
---	---	---	---	---	---

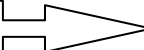
4. 生徒が外国語を学習する動機を考慮できる。

1	2	3	4	5	
---	---	---	---	---	---

5. 生徒の知的関心を考慮できる。

1	2	3	4	5	
---	---	---	---	---	---

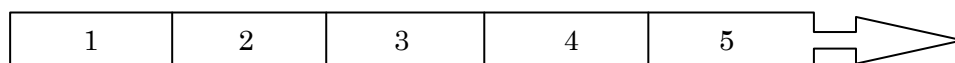
6. 生徒の達成感を考慮できる。

1	2	3	4	5	
---	---	---	---	---	---

C. 語学教師の役割

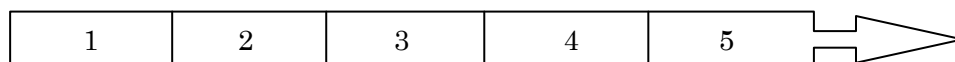
7. 生徒と保護者に対して英語学習の意味や利点を説明できる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---



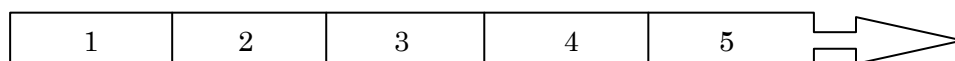
8. 生徒の日本語の知識に配慮し、英語を指導する際にそれを活用できる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---



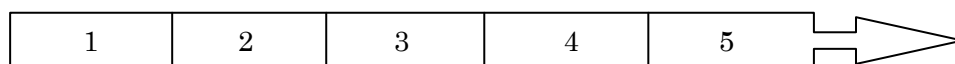
9. 理論を理解して、自分の授業を批判的に評価できる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---



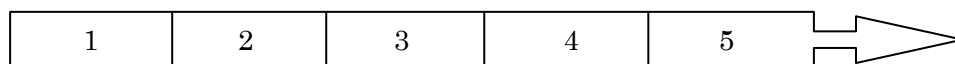
10. 生徒からのフィードバックや学習の成果に基づいて、自分の授業を批判的に評価し、状況に合わせて変えることができる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---



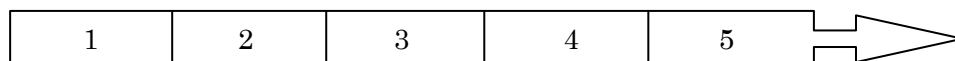
11. 他の実習生や指導教諭等からのフィードバックを受け入れ、自分の授業に取り入れることができる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---



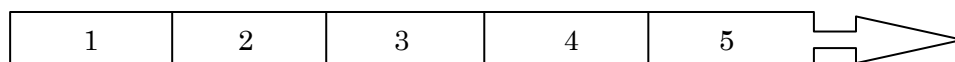
12. 他の実習生の授業を観察し、建設的にフィードバックできる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---



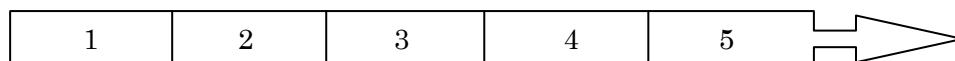
13. 計画・実行・反省の手順で、生徒や授業に関する課題に気づくことができる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---



14. 授業や学習に関連した情報を収集できる。

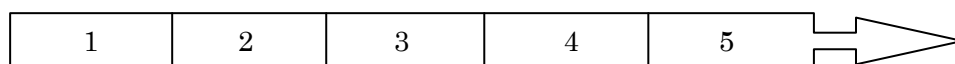
1	2	3	4	5
---	---	---	---	---



D. 組織の設備と制約

15. 実習校における設備や教育機器を、授業などで状況に応じて利用できる。

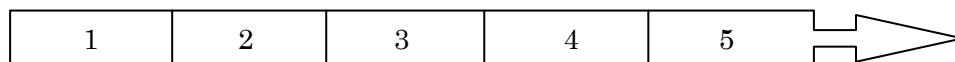
1	2	3	4	5
---	---	---	---	---



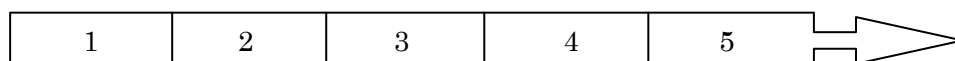
Ⅱ 教授法

A. スピーキング活動

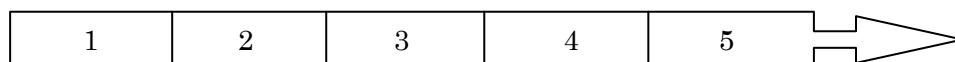
16. 話しやすい雰囲気の中で具体的な言語使用場面を設定することにより、活動に積極的に参加させる指導ができる。



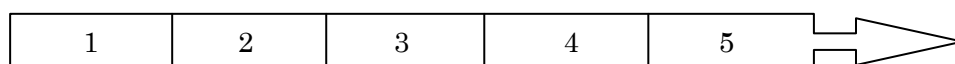
17. 自分の意見、身の回りのことおよび自国の文化等について適切に伝える力を育成するための活動を指導できる。



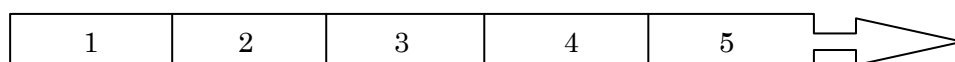
18. 発表や討論などができる力を育成するための活動を指導できる。



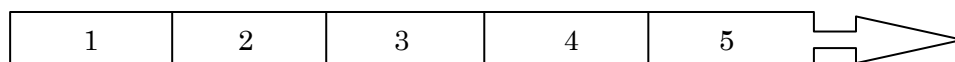
19. スピーキング活動を促すような視覚補助教材、印刷教材、オーディオテープで多様な教材に精通している。



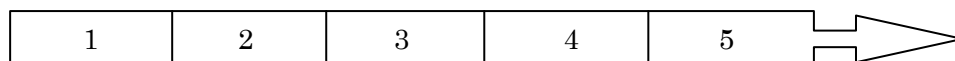
20. つなぎ言葉、あいづち等を効果的に使って、相手とインタラクションができる力を育成するための活動を指導できる。



21. 強勢、リズム、イントネーション等を身につけさせるような音声訓練を指導できる。



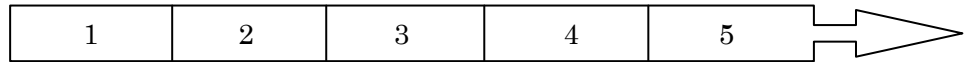
22. 語彙や文法知識等を用いて正確に話す力を育成するための音声指導ができる。



B. ライティング活動

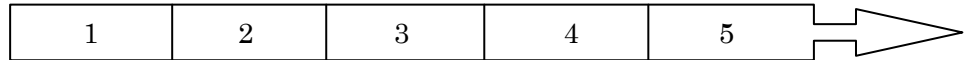
23. 生徒が持っているライティング能力を伸ばすために、言語の使用場面と言語の働きに応じた指導ができる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---



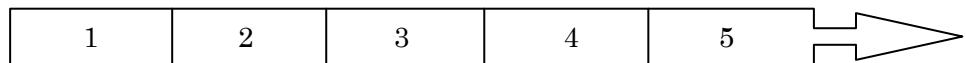
24. 生徒がEメール等のやりとりを行う手助けとなる活動を評価・選択できる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---



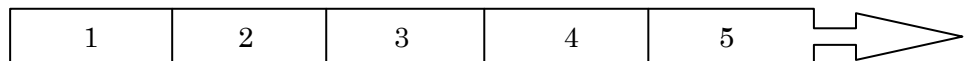
25. 生徒がライティングの課題のために情報を収集し共有することを手助けできる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---



26. 生徒がマインドマップやアウトラインを用いて文章を書くことの手助けができる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---



27. 生徒がまとまりのあるパラグラフやエッセイを書くことができるように指導できる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---



28. 生徒が学習した綴り、語彙や文法などの定着に役立つライティング活動を評価・選択できる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---



C. リスニング活動

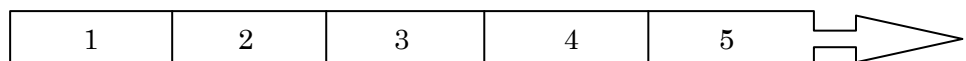
29. 生徒のニーズ、興味、到達度に適した教材を選択できる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---



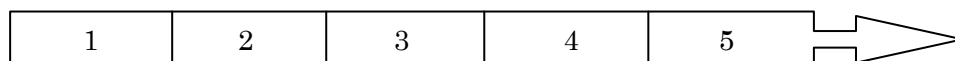
30. 生徒がリスニング教材に関心が向くよう、聞く前の活動を計画できる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---



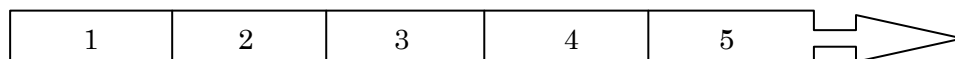
31. 生徒がリスニング教材について持っている関連知識を利用し、効果的にリスニングができるよう促すことができる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---



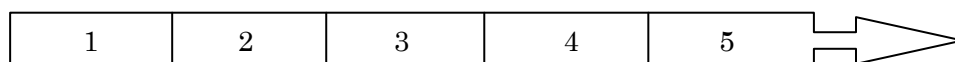
32. リスニング・ストラテジー（要旨や特定の情報をつかむなど）の練習と向上のために、様々な学習活動を作成・選択できる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---



33. 生徒が英語の話し言葉の特徴に気づかせるような学習活動を作成・選択できる。

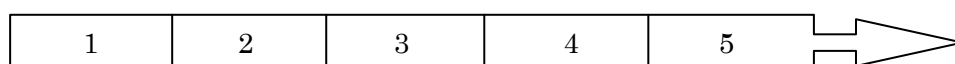
1	2	3	4	5
---	---	---	---	---



D. リーディング活動

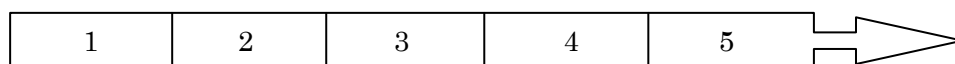
34. 生徒のニーズや興味、到達度に合った教材を選択できる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---



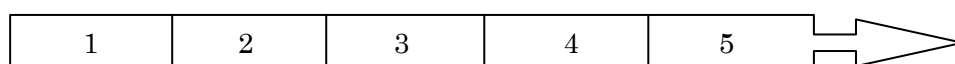
35. 生徒が教材に関心が向くよう、読む前の活動を計画できる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---



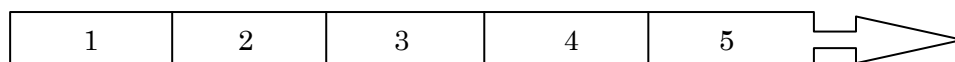
36. 生徒が文章を読む際に、持っている関連知識を使うよう促すことができる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---



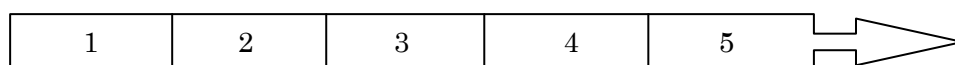
37. 様々な文章の読み方（例：音読、黙読、グループリーディングなど）を適切に行なわせることができる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---



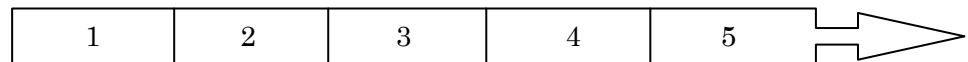
38. 読む目的（例：スキミング、スキヤニングなど）に合わせ、リーディング・ストラテジーの練習と向上のために様々な言語活動を展開できる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---



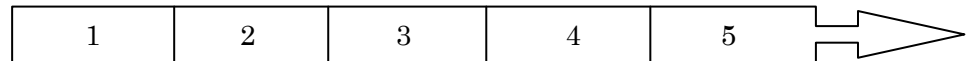
39. リーディングとその他のスキルを関連づけるような様々な言語活動を選択できる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---



40. 多読指導において、生徒のニーズや興味、到達度に合った本を推薦できる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---



E. 文法

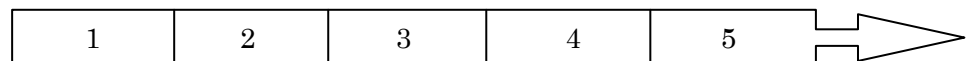
41. 生徒に適切な文法書や辞書を提示し、具体的にそれらを引用して説明を行え、またそれらを生徒が使えるように指導できる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---



42. 文法は、コミュニケーションを支えるものであるとの認識を持ち、使用場面を提示して、言語活動と関連づけて指導できる。

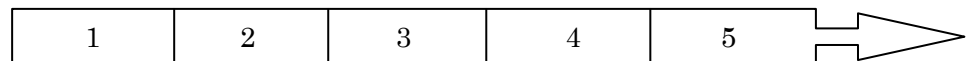
1	2	3	4	5
---	---	---	---	---



F. 語彙

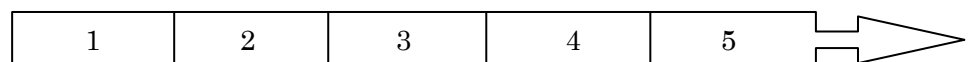
43. 文脈の中で単語を学習させ、定着させるための言語活動を行うことができる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---



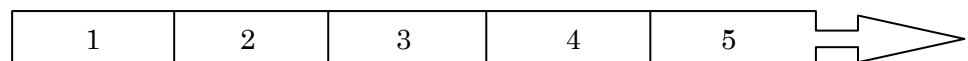
44. ロングマンの辞書の語彙定義に使われる基本2000語を理解し、それらを使って英語で授業ができる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---



45. 使用頻度の高い単語・低い単語、あるいは受容語彙・発信語彙のいずれであるかを判断し、それらを指導できる。

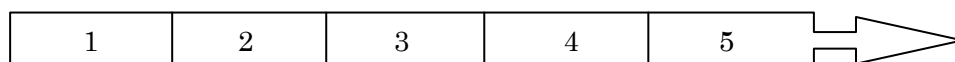
1	2	3	4	5
---	---	---	---	---



G. 文化

46. 英語学習をとおして、自分たちの文化と英語圏の文化に関する興味・関心を引き起こすような活動を指導できる。

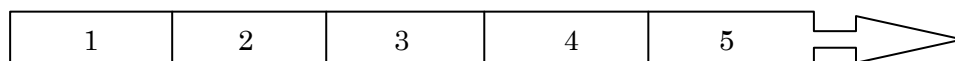
1	2	3	4	5
---	---	---	---	---



Ⅲ 教授資料の入手先

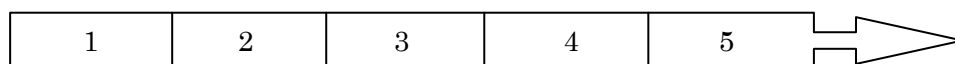
47. 生徒の年齢、興味、英語力に適した教科書や教材を選択できる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---



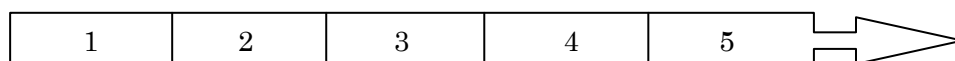
48. 生徒の英語力に適した文章や言語活動を教科書から選択できる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---



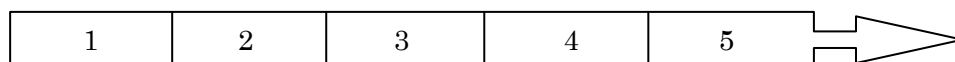
49. 教科書以外の素材（文学作品、新聞、ウェブサイトなど）から、生徒のニーズに応じた聴解と読解の教材を選択できる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---



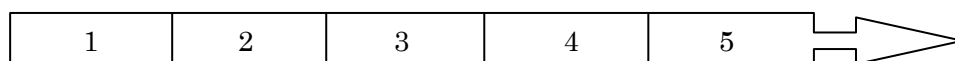
50. 教科書付属の教師用指導書や補助教材にあるアイデア、指導案、教材を利用できる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---



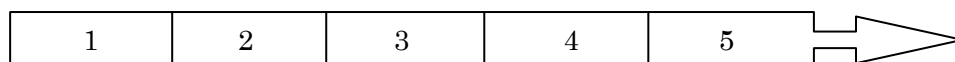
51. 生徒に適切な教材や活動を自ら考案できる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---



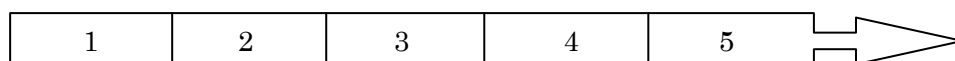
52. 生徒に役に立つ辞書や参考書を推薦できる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---



53. 情報検索のためにネットを使えるように生徒を指導できる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---

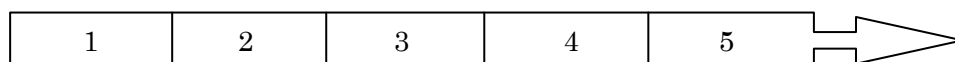


IV 授業計画

A. 学習目標の設定

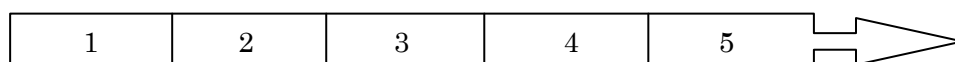
54. 生徒のニーズを考慮し、学習指導要領の内容に沿った学習目標を立てることができる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---



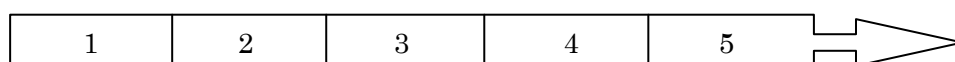
55. 年間の指導計画に即して、授業ごとの目標を設定できる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---



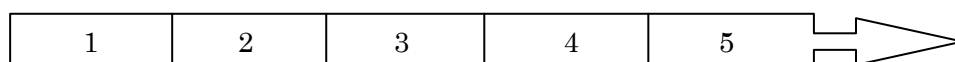
56. 生徒の意欲を高める学習目標を設定できる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---



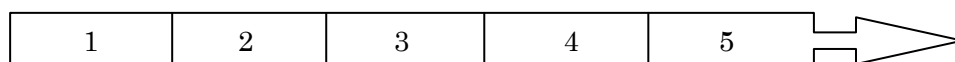
57. 生徒の能力やニーズに配慮した目標を設定できる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---



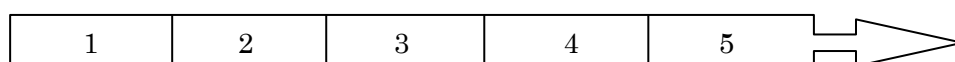
58. 年間の指導計画に基づいて、「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の4技能それぞれに観点別評価の目標を設定できる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---



59. 生徒に自分の学習を振り返り、やる気を起こさせるような目標を設定できる。

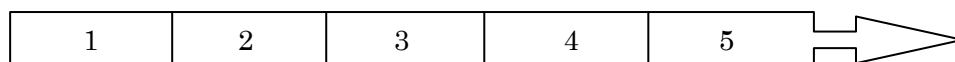
1	2	3	4	5
---	---	---	---	---



B. 授業内容

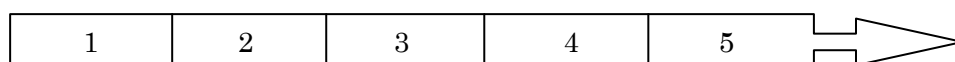
60. 年間の授業計画に基づいて、一貫しかつ多様な指導計画を立案できる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---



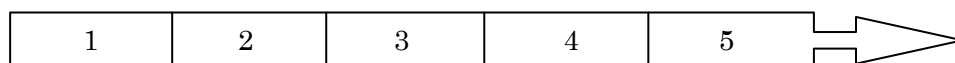
61. 「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の4技能が総合的に取り込まれた指導計画を立案できる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---



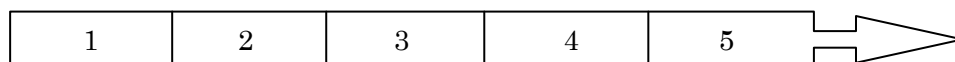
62. 言語や文化に関心を持たせる指導計画を立案できる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---



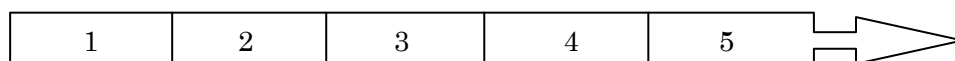
63. 文法学習や語彙学習をコミュニケーション活動に統合させた指導計画を立案できる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---



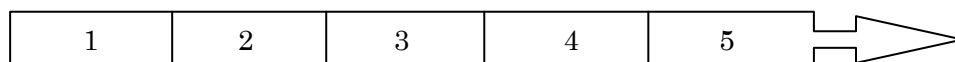
64. 目標とする学習活動に必要な時間を把握して、指導計画を立案できる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---



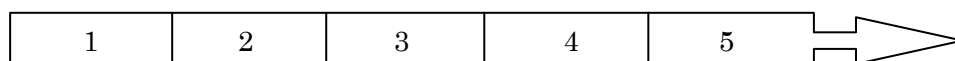
65. 生徒がこれまでに学習した知識を活用した活動を設定できる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---



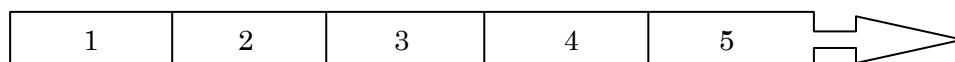
66. 生徒のやる気や興味を引き出すような学習活動を設定できる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---



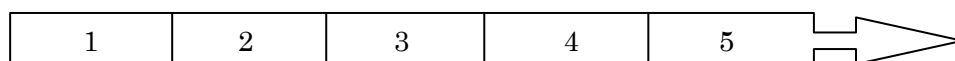
67. 生徒の学習方法に応じた学習活動を設定できる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---



68. 生徒の反応や意見を、授業計画に反映できる。

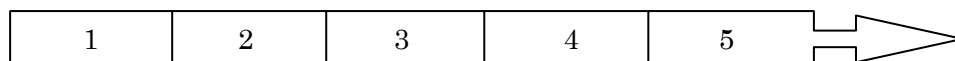
1	2	3	4	5
---	---	---	---	---



C. 授業展開

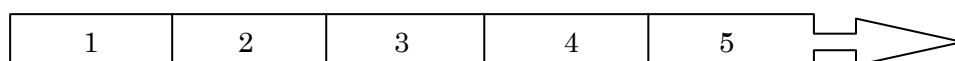
69. 学習目標に沿った授業形式（対面式、個別、ペア、グループなど）を選び、指導計画を立案できる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---

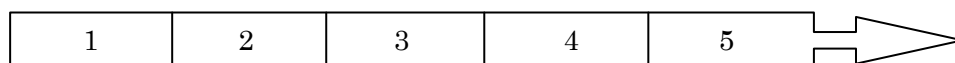


70. 生徒の発表や生徒同士のやりとりを促す活動計画を立案できる。

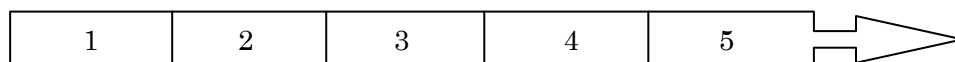
1	2	3	4	5
---	---	---	---	---



71. 英語を使うタイミングや方法を考慮して、授業計画を立案できる。



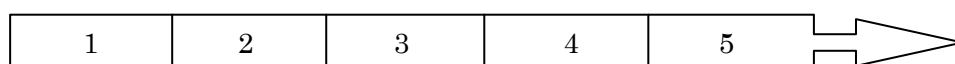
72. 指導教員やALTとのチームティーチングの授業計画を立案できる。



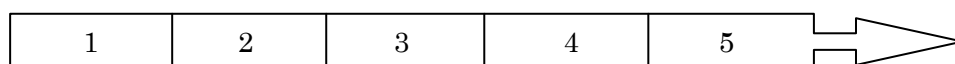
V 授業実践

A. レッスン・プランの使用

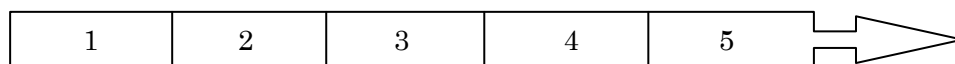
73. 生徒の関心を引きつける方法で授業を開始できる。



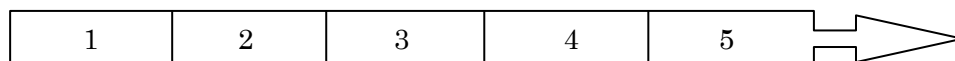
74. 指導案に基づいて柔軟に授業を行い、授業の進行とともに生徒の興味に対応できる。



75. 予想できない状況が生じたとき、指導案を調整して対処できる。

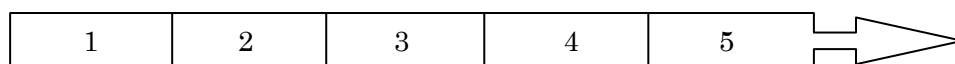


76. 生徒の集中力を考慮し、授業活動の種類と時間を適切に配分できる。



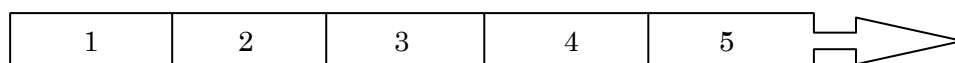
B. 内容

77. 授業内容を、生徒の持っている知識や身近な出来事や文化などに関連づけて教えられる。



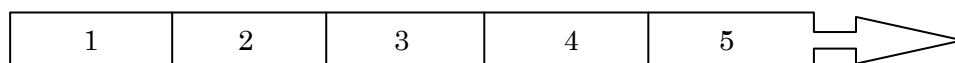
C. 生徒とのインタラクション

78. 授業中、生徒の注意をそらすことなく授業に集中させることができる。



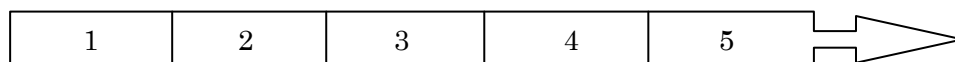
79. 生徒中心の活動や生徒間のインタラクションを支援できる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---



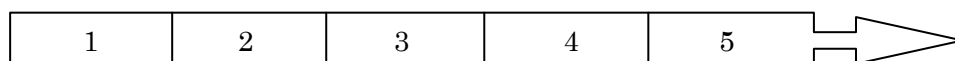
80. 生徒の様々な学習スタイルに対応できる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---



81. 生徒が学習ストラテジーを適切に使えるように支援できる。

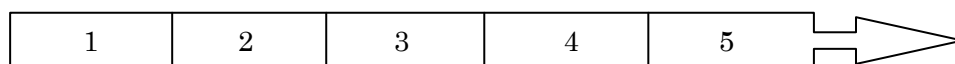
1	2	3	4	5
---	---	---	---	---



D. 授業運営

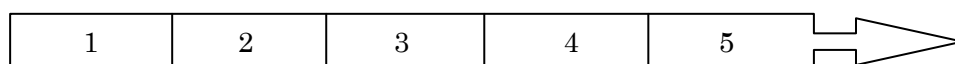
82. 個人学習、ペアワーク、グループワーク、クラス全体などの活動形態を提供できる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---



83. フラッシュカード・図表・絵などの作成や視聴覚教材を活用できる。

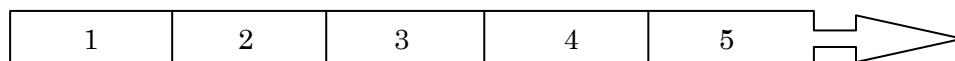
1	2	3	4	5
---	---	---	---	---



E. 教室での言語

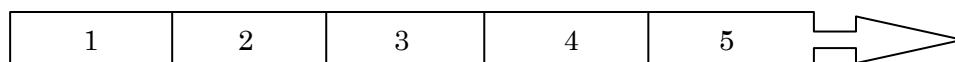
84. 英語を使って授業を展開するが、必要に応じて日本語を効果的に使用できる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---



85. 生徒が授業活動において英語を使うように促すことができる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---

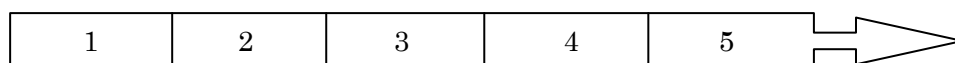


VI 自立学習

A. 学習者の自律

86. 生徒が自分で目標や学習計画を立てる手助けや指導ができる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---



87. 生徒が各自のニーズや興味に合ったタスクや活動を選択する手助けができる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---



88. 生徒が自分の学習過程や学習成果を自己評価できるように支援できる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---



B. 宿題

89. 生徒にとって最も適した宿題を選択できる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---



90. 生徒が自主的に宿題を進めるのに必要な支援を行ない、学習時間の管理の手助けができる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---



91. 妥当で明確な基準に基づいて宿題を評価できる。

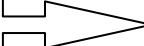
1	2	3	4	5
---	---	---	---	---



C. バーチャル学習環境

92. インターネットなどの ICT を活用でき、生徒にも適切に指導できる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---



VII 評価

A. 測定法の考案

93. 授業の目的に応じて、筆記試験、実技試験などの評価方法を選択できる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---



94. 生徒の授業への参加や活動状況を評価する方法を考慮できる。

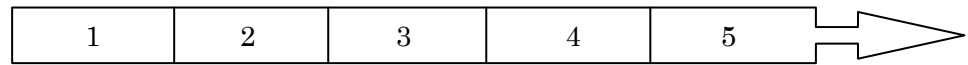
1	2	3	4	5
---	---	---	---	---



B. 評価

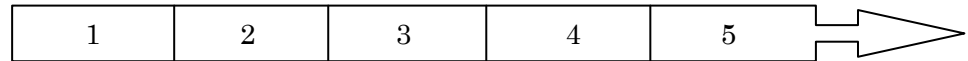
95. 生徒の英語運用力が向上するように、本人の得意・不得意分野を指摘できる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---



96. 学習者や保護者などにわかりやすい形式で生徒のできばえや進歩を記述できる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---



97. 生徒の学習の伸びを信頼性のある適切な方法で評価し、その結果を図表やグラフなどわかりやすく表示できる。

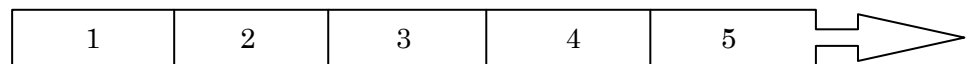
1	2	3	4	5
---	---	---	---	---



C. 言語運用

98. 話したり書いたりする能力を適切に評価できる。

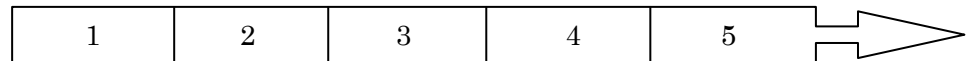
1	2	3	4	5
---	---	---	---	---



D. 国際理解

99. 日本の文化と英語圏の文化を比べ、その相違への生徒の気づきを評価できる。

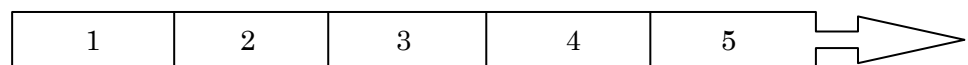
1	2	3	4	5
---	---	---	---	---



E. 誤答分析

100. 生徒の誤りを分析し、建設的にフィードバックできる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---



個人学習・実践記録表

①学習・実践の記録

※英語の学習、英語の授業実践について記録してください（例：模擬授業、授業観察、研究会の参加、英語の資格試験受験など）。資料の有無も記入してください（例：模擬授業指導案、授業の振り返り日誌、授業観察の記録、実習日誌、英語の資格試験結果など）。資料の実物を添付する必要はありません。

実施日	学習・実践事項	概要	コメント	資料の有無
(例1) 2012年 7月25日	TOEICの受験	TOEICの公開テストを受験。	前回 550、今回 610。目標どおり、リスニング 50 以上アップ。	○
(例2) 2012年 9月25日	第1回模擬授業	英語科教育法の授業で、2人1組で20分間の模擬授業を実施。対象：中1。各担当10分。	準備不足のため、時間内に指導案の内容を終えることができなかった。次回は、事前に時間を計って、十分に準備をして臨みたい。	○

--	--	--	--	--

--	--	--	--	--

②継続的な学習・実践の記録

※①に該当しない継続的な英語の学習、英語の授業実践について記録してください（例：家庭教師、塾講師、課外補習ボランティア、学校行事補助、海外研修・留学など）。

実施 期間	学習・実践事項	概要	コメント
(例3) 2012年 4月1日 ~2013年 3月31日	英語の家庭教師 (中学2年生1名)	週1回2時間、中学2年生 を対象に、英語の家庭教師 をした。前半1時間は、単 語テスト、教科書の解説、 音読などにあて、後半2時 間は問題演習と解説にあ てた。	最初は、なかなか上手に教 えることができなかった が、生徒の得意な学習方法 が分かり、生徒に合った教 え方をすることができ るようになった。

--	--	--	--

--	--	--	--

資料 J-POSTL：授業力自己評価項目リスト 100 項目の解説

目 次

J-POSTL の背景と目的	28
1. 背景	28
2. 本資料の目的	28
3. J-POSTL の理念	28
4. 本資料の活用方法	29
J-POSTL 記述文の現場への文脈化	30
I 教育環境	30
A.教育課程/30、B.目標とニーズ/30、C.語学教師の役割/32	
D.組織の設備と制約/34	
II 教授法	35
A.スピーキング活動/35、B.ライティング活動/37、C.リスニング活動/40	
D.リーディング活動/42、E.文法/45、F.語彙/46、G.文化/47	
III 教授資料の入手先	48
IV 授業計画	50
A.学習目標の設定/50、B.授業内容/52、C.授業展開/55	
V 授業実践	56
A.レッスン・プランの使用/56、B.内容/58、C.生徒とのインタラクション/58、	
D.授業運営/60、E.教室での言語/61	
VI 自立学習	62
A.学習者の自律/62、B.宿題/63、C.バーチャル学習環境/64	
VII 評価	65
A.測定具の考案/65、B.評価/65、C.言語運用/65、D.国際理解/66、	
E.誤答分析/66	

J-POSTL の背景と目的

1. 背景

J-POSTL (Japanese Portfolio for Student Teachers of Languages) とは、2009～2010 年に JACET 教育問題研究会が、EPOSTL (European Portfolio for Student Teachers of Languages 「言語教育履修生のためのヨーロッパ・ポートフォリオ」) を基にして開発した「言語教育履修生のための日本ポートフォリオ」です。現在のものは第 1 版であり、現在も継続して改定が行なわれています。また、現在のところ J-POSTL は、日本における外国語教育の中でも特に英語教育という観点から書かれていますが、今後は内容を外国語教育全体に広げていく予定です。

J-POSTL の基になった EPOSTL の源泉は、CEFR (ヨーロッパ言語共通参照枠) と ELP (ヨーロッパ言語ポートフォリオ) です。ELP は CEFR の教育実践ツールであり、EPOSTL とは ELP の一種で、言語教育履修生と現職言語教師を対象としたリフレクションのためのツールです。CEFR はあくまで参照枠で、この 2 つのツールの源泉ですから 1 種類しか存在しないのですが、同じ言語でも対象や目的によって内容の異なるものも含め ELP は現在約 110 種類のバージョンが正式に認定されています。また、EPOSTL は、内容はそのまま現在 11 ヶ国語に翻訳されています。一方 J-POSTL は EPOSTL の翻訳版ではありません。日本とヨーロッパでは教育的文脈が異なりますから、日本に文脈を置き換えて EPOSTL を翻案化しています。

2. 本資料の目的

本資料では、英語教職課程を履修中の皆さんが、実際の教育現場で実践を積む際に必要な資質能力とは何か、その理解の手助けとなるように、J-POSTL の授業力自己評価項目についてより具体的な場面や活動例を挙げました。それぞれの具体例は以下のような前提の下に考えられています。

- ・ クラスサイズ：35～40 名、男女共学
- ・ 日本人英語教員 1 名による授業
- ・ 検定教科書を使った、教師・生徒ともに授業を主に英語で行う CLT (Communicative Language Teaching) の実践

また具体例は中学校初級レベルから高校上級レベルまでをカバーし、比較的取り組みやすい例から難易度の高いと考えられる例へと順に並べられています。これらの具体例は、授業実践において考えられるすべての場面や活動を網羅してはいませんが、皆さんが授業を実践する上で、各項目をよりよく理解するための参考としてください。

3. J-POSTL の理念

本資料は、教員養成課程において J-POSTL を効果的に活用してもらうために、実習生の

皆さんに必要となる授業力や資質能力とは何かを考え、具体例を挙げて説明を試みています。その前提として、皆さんに理解しておいてもらいたい J-POSTL を支える理念とは次の 2 点です。

- ・ 行動志向の言語観(Action-oriented view of language)
- ・ 生涯学習 (Lifelong learning)

行動志向の言語観とは、CEFR の理念である複言語・複文化主義に由来しており、場面・概念・機能シラバスを中心とした CLT が理想的な教授法といえます。一方、生涯学習については次のように考えられます。これまでの日本の学校英語教育では、「(英検や TOEIC などの) 能力試験で良い成績をとる」、「入試に合格する」、「仕事で使える」という 3 種の英語力が目標とされ、学習者の動機付けとなってきました。しかし、こういった目標は、短期または中期的な目標にはなりえても、長期的な目標とは言えませんし、また外的な動機付けに過ぎません。これらに代わる、英語学習の長期的目標や、内的動機付けとなりうる観点が、生涯学習、言い換えると「(自ら) 学習するようになること (learning to learn)」です。つまり、自分の意思で英語の学習を始め、学習の管理ができる自律した学習者になること、そして、英語の学習は楽しく役に立つという充実感覚や実用感覚を生涯持ち続けること、こういった長期的な目標を持てるようになることです。

教員養成の過程においても、実習生は何かができるようになればよいかを記述文を読んで理解し、どの程度達成できたか、教師としての成長過程を振り返る機会を定期的に持つとよいでしょう。定期的な振り返りは、適切な自己評価につながり、授業改善が可能となります。このように英語科教員としての専門性を向上させ、自律した教師となるための一生涯にわたる過程のスタートラインに皆さんは立っているのです。

4. 本資料の活用方法

『言語教育履修生のためのポートフォリオ』の「(2) 振り返りのための授業力自己評価項目リスト」を使用する際に、本資料を活用してください。本資料では、「振り返りのための授業力自己評価項目リスト」にある 100 項目の記述文に対して、それぞれ具体的な指導例や活動例が示されています。これらの具体例は、比較的取り組みやすい例から難易度の高い例へと配列されていますので、授業力自己評価項目で自己の達成度を評価する際に参考にしましょう。また、ここに挙げられている参考例以外にもさまざまな実践例が考えられますので、自分でも創意工夫して取り組んでみてください。

本資料内の具体例は、長期にわたる自己の成長の目安として活用することを目的としていますので、英語教職課程の段階ですべてを完璧にこなすことができなくても心配する必要はありません。それぞれの成長段階では、各項目についてできることは部分的になるでしょう。しかしながら、本資料を機会があるごとに活用し、英語教師に必要な資質能力について具体的に理解できるようにすることによって、英語教職課程や実習での学びの際に、現段階でどのレベルまでできればよいのかを振り返ることが重要です。不明な点について

は担当教員や実習先の先生と相談して進め、適切な助言を受けてください。また、教職のあり方や授業実践などについて多角的に考えるために、履修生同士で話し合う機会を持つことも重要です。

本資料は教師としての成長過程を振り返るためのものですから、皆さんが自律した教師へと成長するために、英語教職課程修了後でも、継続的に、長期的に活用することをお勧めします。

J-POSTL 記述文の現場への文脈化

I 教育環境

A. 教育課程

1. *学習指導要領に記述された内容を理解できる。

(学習指導要領に記述された内容)

- ・ 実践的コミュニケーション能力の育成を行う。
- ・ 4技能の統合を図る。
- ・ 既習事項を繰り返して指導し、定着を図る。
- ・ 授業で英語を使い、生徒が英語を使う場面を作る。
- ・ 生徒の実態や教材の内容に応じて、学習形態や活動を工夫する。
- ・ 小学校外国語活動の目標・内容を理解し、小中高連携を意識した授業づくりをする。

*学習指導要領 (3, 54を参照)

B. 目標とニーズ

2. 外国語を学習することの意味を理解できる。

(外国語を学習することの意味)

- ・ 母語と異なる言語を学ぶことによって、言語そのものへの関心を深め、言葉の構造や働きについての理解を深める。
- ・ 言語の背景にある文化を理解することで、異なった文化や考えをもつ他者を尊重する。
- ・ 他文化を理解することで、客観的かつ相対的に自国の社会や文化を見つめ直す。
- ・ 海外の人とのコミュニケーションを通じて、多様な考えや知識を学び視野を広げる。
- ・ 国際社会において自ら考え、その考えを相手に明確に主張できる価値観や物の見方を育成する。

3. *学習指導要領と*生徒のニーズに基づいて到達目標を考慮できる。

(到達目標を考慮する際に行うこと)

- ・ 学習指導要領の目標を確認する。
- ・ 生徒が外国語学習を学習する動機をアンケート調査などで把握する。

- ・ 生徒がこれまで学習してきた内容を確認する。(例：前年度の教科書の内容を確認する。)
- ・ 生徒がどの程度英語が身についているか把握する。(例：生徒の学習到達度を知るために、学力テストを行う。前年度の英語授業を担当していた教員から生徒の様子を聞く。)

*学習指導要領 (1, 54を参照)

*生徒のニーズ (項目29, 34, 40, 49, 54, 87を参照)

4. 生徒が外国語を学習する動機を考慮できる。

(外国語を学習する動機の例)

- ・ 英語を勉強することで視野を広げたい。
- ・ 海外旅行で使える英語を身につけたい。
- ・ 外国の人と友達になりたい。
- ・ 字幕なしで洋画が理解できるようになりたい。
- ・ 入試に合格したい。
- ・ 就職で役に立つから。

(動機を喚起する方法)

- ・ 教科書の内容に関連したオーセンティックな教材を取り入れる。(例：英字新聞、海外の広告・雑誌・映画、洋楽)
- ・ 生徒が授業で英語を使用する場面をもうける。(例：ロールプレイや問題解決型タスク)
- ・ 教室外で英語を使用する機会をもうける。(例：ALTと廊下で話す。E-palとメールをやりとりする。)
- ・ 自分の考えを英語で表現する機会をもうける。(例：教科書の内容についてディスカッションをする。教科書の内容について英語で意見を書き、生徒同士で読み合う。)

5. 生徒の知的関心を考慮できる。

(知的関心を考慮した授業の工夫)

- ・ 授業で使用する題材を通して生徒に社会問題、人生などを考えさせる。(例：環境問題の題材を読み、各自ができるリサイクルの方法を考える。)
- ・ 生徒の創造力を引き出す活動を取り入れる。(例：アンネ・フランクの日記を読んだ後、彼女に宛てた手紙を書かせる。)
- ・ 生徒の感性に訴える活動を取り入れる。(例：詩や歌詞の意味を考えさせる。)
- ・ 日本語と英語を比較する教材を取り入れる。(例：日英のことわざの意味を比較する。)

6. 生徒の達成感を考慮できる。

(達成感を考慮した授業の工夫)

- ・ 授業の到達目標を明確にする。(例：中3以上であれば1分間に100wordsの英語を読む。)
- ・ 毎回の授業で同じ活動に取り組ませ、学習過程を記録させて進歩を実感させる。(例：毎時間速読の教材に取り組ませ、1分間に読めた語数を記録する。)

- ・ 段階を踏んで目標を達成させる。（例：5分間のスピーチを完成するのに、内容のブレインストーミング、イントロダクション（序論）の原稿作成と練習、メインアイデア（本論）の原稿の作成と練習、コンクルージョン（結論）の原稿作成と練習、全体練習、発表と手順を踏む。）
- ・ 生徒が一人でできそうと思える宿題を出す。

C. 語学教師の役割

7. 生徒と保護者に対して英語学習の意味や利点を説明できる。

（英語学習の意味や利点）

- ・ Bの2を参照のこと。

（説明の方法）

- ・ 授業中に口頭で生徒に説明する。
- ・ ニュースレターに英語学習の意味や利点についてのコラムを書き、生徒や保護者に読んでもらう。

8. 生徒の日本語の知識に配慮し、英語を指導する際にそれを活用できる。

（生徒の日本語の知識に配慮した英語指導）

- ・ 教科書の内容に入る前に、題材に関する生徒の背景知識を活性化する。（例：日本語で題材に関する質問をする。題材に関するキーワードのマップを書かせる。）
- ・ 日本語と英語のリズムの違いを比較しながら音読指導をする。
- ・ 日本語と英語の概念を比較しながら語彙指導をする。（例：英語の「go」と「come」の概念と日本語の「行く」と「来る」の概念を比較し、違いを教える。）
- ・ 日英のライティング形式の違いを比較しながら、提示する。（例：日本語の起承転結の段落構造と英語のトピックセンテンスを含んだ段落構造を比較する。）

9. 理論を理解して、自分の授業を批判的に評価できる。

（理論の理解）

- ・ 外国語学習の教授法（訳読法、オーラル・アプローチ、コミュニカティブ・ランゲージ・ティーチング、タスクベースト・アプローチなど）についてそれぞれの利点と問題点がわかる。外国語として英語を学ぶ生徒の言語習得の特徴が分かる。（例：学習者が使う英語は体系的に発達する。学習者が使う英語は母語の影響を受ける。）
- ・ 外国語学習者の成功を左右する学習者要因が分かる。（例：動機づけ、学習スタイル、学習ストラテジー）
- ・ 4技能（リスニング、スピーキング、リーディング、ライティング）の指導理論を知っている。

（自分の授業の批判的な評価）

- ・ 授業中に生徒の様子を観察し、授業後に課題について反省と原因の分析をする。
- ・ 口頭やアンケートなどによる生徒からのフィードバックに基づき、課題について反省と

原因の分析をする。

- ・ テスト結果などの学習成果に基づき、課題について反省と原因の分析をする。
- ・ 授業をビデオで撮影し、観点別（授業展開、発問の適切性、各活動の時間配分、生徒へのフィードバックの方法など）に利点と問題点を評価する。

10. 生徒からのフィードバックや学習の成果に基づいて、自分の授業を批判的に評価し、状況に合わせて変えることができる。

（生徒からのフィードバックや学習の成果に基づく自分の授業の批判的な評価）

- ・ 日常の授業で生徒を観察し、なぜ積極的に活動に参加していないのか原因を分析する。
- ・ 生徒が授業で理解できなかった点についてアンケート調査し、なぜ理解できなかったのか原因を分析する。
- ・ 定期テストにおいて、生徒が点を取れなかった箇所を確認し、授業のどの点に問題点があったのか分析する。
- ・ 小テストや宿題のプリントで生徒が間違えた部分を確認し、なぜ間違えたのか原因を分析する。

（状況に合わせて変える）

- ・ 活動の時間配分を変える。（例：生徒の話す力がついていない場合、話す力を伸ばすための活動の時間を増やす。）
- ・ 活動の難易度を変える。（例：生徒がペアで話す活動に積極的に活動していなかった場合、話しやすいテーマに変更したり、会話の雛型が書かれた補助プリントを作成する。）
- ・ 活動の内容を変える。（例：生徒の読む力がついていない場合、教えていなかった語彙の推測やスキミングやスキヤニングなどの読解ストラテジーを明示的に教える。）
- ・ 言語材料の提示や練習方法を変える。（例：生徒に現在完了形の概念が定着していない場合、生徒がより理解しやすい導入方法を工夫し、定着のための練習方法を変える。）

11. 他の実習生や指導教諭等からのフィードバックを受け入れ、自分の授業に取り入れることができる。

- ・ 厳しい批判でも反発せずに謙虚に受け入れ、授業を改善する。
- ・ 問題点を指摘された場合、どのようにその問題点を解決し改善できるか考え、自分の授業を修正する。
- ・ 問題点が指摘され、その改善方法について提案があった場合、改善案を取り入れて実践してみる。
- ・ 改善案を実践してみてもうまくいかない場合は、自分で別の改善案を考え授業で再度実践してみる。

12. 他の実習生の授業を観察し、建設的にフィードバックできる。

（建設的なフィードバック）

- ・ 授業の良かった点と改善点について、観点別（流暢に読めたなどの言語スキル、ジェス

チャーなどの非言語スキル、時間配分、言語材料の提示方法、生徒への対応など）に述べる。

- ・ 生徒の様子を観察し、実習生が気づいていない点について述べる（例：ペア活動を先に終えていたが、他のペアが終わるまで退屈そうにしていた。）
- ・ 授業者の授業の意図を理解した上で、生徒の立場から授業に対してコメントをする。
- ・ 改善点についてどのように改善したらよいか具体案を提示する。

13. 計画・実行・反省の手順で、生徒や授業に関する課題に気づくことができる。

（計画・実行・反省の手順）

- ・ 授業を計画する際に、前時を振りかえり、課題に気づきその解決策を考える。
- ・ 授業を実施している際に、生徒の様子を観察し気づいた課題を書きとめる。
- ・ 授業後、本時の授業を振り返り、課題に気づきその解決策を考える。

（生徒や授業に関する課題の例）

- ・ 生徒の興味・関心を把握していない。
- ・ 生徒の興味・関心を引き出す導入（活動）の工夫がされていない。
- ・ 生徒の緊張感、集中力を維持できるような工夫や指導ができていない。
- ・ 生徒の発話に対して、適切なフィードバックができていない。
- ・ 生徒への発問の内容や意図が明確でない。
- ・ 各活動の時間配分が適切でない。

14. 授業や学習に関連した情報を収集できる。

（授業や学習に関連した情報の収集方法）

- ・ 英語教育に関する書籍を読む。
- ・ インターネットで教材や授業実践例を収集する。
- ・ 『英語教育』や『新英語教育』などの英語教育専門雑誌を定期購読する。
- ・ 教育関連の出版社や学会のホームページの掲示板等を定期的にチェックし、講演会やワークショップに参加する。
- ・ 英語教育に関するメーリングリストに参加する。
- ・ 同僚と授業方法や教材についてアイデアを共有する。
- ・ 教科書を見ないで、生徒を機器からの音声だけで理解させるようにしている。

D. 組織の設備と制約

15. 実習校における設備や教育機器を、授業などで状況に応じて利用できる。

（CD playerなど音声を出す機器の場合）

- ・ 教科書を見ないで、生徒を機器からの音声だけで理解させるようにしている。
- ・ 生徒を機器からの音声についてリピートをさせている。
- ・ 生徒を機器からの音声を使いロールプレイをしている。
- ・ 生徒を機器からの音声とともに読ませるオーバーラッピングをさせている。

- ・ 教科書を見ないで、生徒を機器からの音声について読ませるシャドーイングをしている。
(VTRやDVDなど映像を出す機器の場合)
 - ・ 背景知識を活性化または与えるために、教科書に関連したトピックの映像を教科書の本課に入る前に視聴させる。
 - ・ 教科書付属の映像を教科書の本課に入る前に視聴させる。
 - ・ モノローグの課の場合、教科書付属の映像を、音読やリスニングの練習などで使用する
 - ・ 対話の課の場合、教科書付属の映像を、対話練習などで使用する。
- (ビデオカメラの場合)
- ・ 生徒にパフォーマンスをさせる場合、先輩が演じた映像をモデルとして見せる。
 - ・ 生徒のパフォーマンス指導に活用する。
 - ・ 生徒のパフォーマンスを評価するために使用する。
- (PCの場合)
- ・ 教材を作成する
 - ・ 評価の計算をする
 - ・ 生徒のデータベースを作る

II 教授法

A. スピーキング活動

16. 話しやすい雰囲気の中で具体的な言語使用場面を設定することにより、活動に積極的に参加させる指導ができる。

(話しやすい雰囲気の中で・積極的に参加させる)

- ・ クラス内で授業ルールを決め、毎回の授業内活動をルーティン化する（生徒のaffective filterを下げる活動）
- ・ ペア・ワークやグループ・ワークにおいて全員が活動することによって、生徒1人に注目が集まらないようにする（生徒中心の活動、affective filterを下げる活動）。
- ・ 基本的に英語を教室の言語とし、英語授業に対する認識や意識を高める。
- ・ 英語を使う姿勢や、具体的な使い方の見本を教師自身がやって見せる。
- ・ 教室英語（classroom English）を多用することによって、実際に英語を使うことに慣れさせる。
- ・ 生徒の間違いの直し方を工夫することで（rephraseを含む）、生徒に間違いを恐れず、積極的に英語を使う気持ちを持たせる。
- ・ 生徒の身近な暮らしに関わる場面における特有の表現例を練習し、英語をコミュニケーションの手段であることを実感させる（あいさつする、質問する、謝る、希望を伝えるなど）。
- ・ コミュニケーションを円滑にするために、言葉のやりとりを円滑にする手だてを学ばせる（相づちをうつ、聞き直す、繰り返すなど）。
- ・ 気持ち・情報・考えや意図を伝えるための言葉の働きを取り上げる（礼を言う、褒める、

説明する、賛成するなど）。

- ・ 相手の行動を促すための言語の働きを取り上げる（質問するなど）。

（具体的な言語使用場面を設定する）

- ・ あいさつの表現例を練習した後に、クラスの中でチームを作り、各チームでリーダーにあいさつをするリレー・ゲームを行う。
- ・ ペアになって自己紹介の練習をした後に、クラス内でビンゴ・シートを使ってインタビュー・ゲームを行う。
- ・ 買い物の表現例を練習した後に、グループになって、ファーストフード店での店員と客のロールプレイを行う。
- ・ ペアで道案内の表現例やジェスチャーを練習し、スキットを作って発表する。

17. 自分の意見、身の回りのことおよび自国の文化等について適切に伝える力を育成するための活動を指導できる。

（自分の意見、身の回りのことおよび自国の文化等）

- ・ 自分の日課、趣味、特技など、個人的な情報について **show and tell**を行う。
- ・ 教科書の単元で学んだトピックについて5行スピーチをする（例：介助犬について）。
- ・ 日本の四季について、自分の好きな季節を選んで、その理由を説明するスピーチをする。
- ・ 日本固有の行事について調べ、その特徴をグループごとにまとめてスピーチする（例：節分にすること）

（適切に伝える力）

- ・ 教科書の単元で学んだ語、連語及び慣用表現を使ってゲーム（例、**three hint game**）やスピーチをする
- ・ 得られた情報や話題について問答する

18. 発表や討論等などができる力を育成するための活動を指導できる。

（発表や討論等などができる力を養成する）

- ・ 生徒にとって身近なテーマや、教科書の単元で学んだトピックを選び、ペア・ワークやグループ・ワークによって生徒同士で（日本語による）ブレインストーミングする機会や時間を設けて、プレゼンテーション、ディスカッション、あるいはディベートを始める前にウォーミング・アップする。
- ・ 意見が明確に分かれるトピックを用意し、賛成派・反対派のグループに分かれて、それぞれの理由を発表させる（例：一戸建て **vs** 集合住宅、制服 **vs** 私服）。
- ・ 教師がテーマやトピックを選び、既習の表現例や、教科書で学んだ表現を使って、生徒が1分スピーチを作り、個人発表を行う。

19. スピーキング活動を促すような視覚補助教材、印刷教材、オーセンティックで多様な教材に精通している。

- ・ 同僚と情報交換しながら、生徒が関心を持ちそうなテーマやトピックを扱った、市販の

CD・DVD教材や印刷教材、あるいは新聞や雑誌（日本語、英語）を入手し活用する。

- ・生徒に馴染みのあるキャラクターが登場する4コマ漫画を使い、ペア・ワークでせりふの部分を考えさせるためのワークシート教材を作成する。
- ・アニメ、ドラマ、映画の1シーンを音声なしで見せて、グループで登場人物のセリフを考えさせて発表させる。

20. つなぎ言葉、あいづち等を効果的に使って、相手とインタラクションができる力を育成するための活動を指導できる。

- ・ つなぎ言葉（Let me see, Wellなど）や相づち（I see, Sureなど）が会話を続けるために有用な表現であることをきちんと生徒に説明する。
- ・ つなぎ言葉やあいづちを使うことを恥ずかしく感じる生徒がいると思われるので、教師が日頃から授業の中で使ってみせる。
- ・ （A-16と同様に、具体的な言語場面を設定して）つなぎ言葉や相づちを加えたスキットを考えて発表させる（例：道案内など）。
- ・ 教科書の登場人物のせりふにつなぎ言葉や相づちを加えて、生徒同士でロールプレイを行う。

21. 強勢、リズム、イントネーション等を身につけさせるような音声訓練を指導できる。

- ・ 歌、チャンツ、ライムを使って、全体の流れから英語特有の音に慣れさせる（例：マザーグース）。
- ・ 教室英語の中にチャンツやライムを取り入れて、授業の中で自然に使えるようにする（例：Eenie, Meenie, Minie, Moe / See you later, Alligator）。
- ・ 早口言葉で英語の強勢やリズムを練習して、チームに分かれて早口言葉のリレーを行う（例：Peter Piper）。
- ・ 教科書の付属CDなどを使い、教科書の音読、シャドーイング、リピーティングを行う。

22. 語彙や文法知識等を用いて正確に話す力を育成するための音声指導ができる。

- ・ 絵カードで単語の意味を確認させながら、繰り返し発音させる。
- ・ ペア・ワークで、自分達で言語使用場面を設定し、日常生活でよく用いられる慣用表現を使ったスキットを作って発表する（例：excuse me, I'm sorry, thank you, you're welcome, I have no idea. No problem.）。
- ・ 平常文とは異なる語順、動詞の形が変化したりする疑問文に慣れるために、ペア・ワークで疑問文を使ったロールプレイを行う（例：orを含む選択疑問文、wh-疑問文）。
- ・ 授業中に生徒の発言に間違いがあった場合には、教師が正しい英語の表現で言い換える。
- ・ 既習の語彙や文法を使ったスピーチを書き、教師が添削し、発音指導をした上で発表する。

B. ライティング活動

23. 生徒が持っているライティング能力を伸ばすために、言語の使用場面と言語の働きに応じた指導ができる。

- ・ 目的別のカード（例：お礼、お詫び、お見舞い、お祝い、時節の挨拶など）の書き方や表現例を提示する。また、実際に書かせる。
- ・ 私的な文章の書き方と公的な文章の書き方の違いを提示する。
- ・ 口語的な文を文語的な文に言い換える（paraphrase）練習をさせる。また、その逆の練習をさせる。
- ・ メモの取り方の練習をする。
- ・ 効果的なメモがとれるようによく使われる記号の一覧を提示する。（例：because→b/c, with→w/, without→w/oなど）
- ・ 各自覚えやすい記号を考える活動をする。
- ・ 比較、原因・理由、例示、分類、列挙と目的に応じたパラグラフの構成の見本を提示し、構成要素の分析をする。
- ・ 比較、原因・理由、例示、分類、列挙と目的に応じたパラグラフを書く練習をさせる。（例：質問・課題に答える）

24. 生徒が E メール等のやり取りを行う手助けとなる活動を評価・選択できる。

- ・ Eメール（一般的）のひな形を提示する。
- ・ Eメールの書き方の良い例、悪い例をそれぞれ提示し評価する活動をする。
- ・ 生徒にテーマ（例：課題を提出する、課題について質問するなど）を与え、教員に対してEメールを送る活動をする。
- ・ ALTの先生にEメールを書く活動をする。
- ・ 海外に姉妹校等がある場合、そこの生徒とEメールを交換する活動を計画し、実施する。

25. 生徒がライティングの課題のために情報を収集して共有することを手助けできる。

（情報収集）

- ・ 情報の選定・評価の仕方について説明する。
- ・ ウィキペディアなどの情報は必ず引用・参考文献を確認させる。
- ・ 情報の収集方法について説明する。（キーワードの設定の仕方、データベースの種類・使い方、参考文献リストの参照の仕方等）
- ・ 情報源の記録の仕方について説明する。
- ・ 剽窃について説明する。
- ・ 剽窃を回避する方法について説明する。

（収集した情報の共有）

- ・ グループごとに持ち寄った資料について口頭で発表する。（情報源を提示し、自分の言葉で説明する）
- ・ グループごとにお互いの資料を評価する。（信憑性、適切性など）

26.生徒がマインドマップやアウトラインを用いて文章を書くことの手助けができる。

- ・ クラス全体で一つのテーマ（例：「制服」）を設定し、ペアなどでマインドマップする活動をする。その上で、ペアごとに発言を促し、黒板・白板に一斉にマインドマップする。・ 上記で板書されたキーワードのカテゴリーごとに分類する。（分類化の例：「制服」の利点・弱点）
- ・ 各自テーマに関する自分の意見・立場を考える。（例：「制服」に賛成、反対）
- ・ アウトラインの見本（モデル）を提示する。（例：「制服」に賛成の場合のアウトラインおよび反対の場合のアウトラインを提示する）
- ・ 収集した情報（例：「制服」についての利点や弱点について書かれている新聞や雑誌記事）をアウトラインにあてはめる活動をする。（使える情報とそうでないものの取捨選択も含む）
- ・ 各プロセスの目的を明示的に、目的を意識しながら活動させ、自立に導く。

27.生徒がまとまりのあるパラグラフやエッセイを書くことが出来るように指導できる。

（パラグラフを書く）

- ・ パラグラフの特質について説明する。（例：新しい段落の始めは半角 5 スペース空けるもしくは一行あける、150～180 単語程度(目安)、主題は一つなど）
- ・ パラグラフの構成について説明する。
- ・ 分かりやすいトピックセンテンスとそうでないものを区別するワークシートをつくる。
- ・ 短めのパラグラフを読み、トピックセンテンスを見つける活動をする。
- ・ 日英のパラグラフ（段落）の修辞法を比較し、相違点・類似点を見つける活動をする（エッセイを書く）

- ・ エッセイの構成について説明する。
- ・ パラグラフを分解し、接続詞等のヒントを使いながら、再構成する活動をする。
- ・ 比較、原因・理由、例示、分類、列举と目的に応じた接続詞等について説明する。
- ・ 序論（introduction）の構成について説明する。
- ・ 序論（introduction）でどのように読み手を引きつけるか考える。
- ・ thesis statement について説明する（役割、本論や結論との関係なども含む）。
- ・ 本論（body paragraphs）の構成について説明する。
- ・ 結論（conclusion）の構成について説明する。
- ・ 結論（conclusion）では新情報は追記しないことを説明する。
- ・ 題名（title）の付け方について説明する。
- ・ ペアになり、互いに書いたパラグラフやエッセイの題名（title）をつける活動をする。
- ・ 日英のエッセイ（小論文）の修辞法を比較し、相違点・類似点を見つける活動をする。

28.生徒が学習した綴り、語彙や文法などの定着に役立つライティング活動を評価・選択できる。

(語彙・文法)

- ・ 生徒たちが提出したライティング課題の中で散見された語彙や文法の誤用を一覧にし(匿名)、生徒たち(個人、ペア、グループ)で修正する活動をする。
- ・ 生徒たちが提出したライティング課題の中で散見された語彙や文法の誤用を一覧にし(匿名)、生徒たち(個人、ペア、グループ)で修正する活動をする。
- ・ あるライティング課題において、クラス全体で語彙や文法の誤用について、説明する。また、ワークシートを作成する。
- ・ ある文法事項に焦点をあて、その点についてのみ提出前のライティング課題を各自確認させる。
- ・ 生徒が間違いやすいポイントを一覧にした自己チェックリストを作成し、提出前のライティング課題を確認させる。
- ・ 教員が修正したライティング課題を振り返らせ、自分の誤用について振り返りレポートを書かせる。
- ・ 自己チェックリストを使用し、ペアでピアレビュー(お互いの課題のチェック)をさせる。
- ・ 辞書(活用辞典など)のツールとその使用方法について説明し、練習する。

(綴り)

- ・ 文章作成ソフトのワードのスペリングチェック機能およびその注意点(英語で存在する単語の場合、誤用であっても指摘されないことなど)について説明する。
- ・ 生徒が綴りを間違えて覚えてしまっていると思われる語彙もしくは綴りの区別が分かりにくい語彙について明示的に説明する(例: adopt/ adapt, low/law など)。

C. リスニング活動

29. * <u>生徒のニーズ</u> 、興味、到達度に適した教材を選択できる。
--

(生徒のニーズ、興味、到達度)

- ・ 生徒が興味・関心を持っているテーマやトピックについてアンケート調査を行う(例: 好きな歌手、行ってみたい国)。
- ・ 生徒自身に自分の英語力や到達度についてアンケート調査を行う。
- ・ 中学生の場合、小学校外国語活動で「聞くこと」についてある程度慣れ親しんでくることになるので、入学時に生徒が「聞くこと」について実際にどの程度の状況にあるかを調査・分析し、入学後は授業観察、小テスト、定期テストなどを通して生徒の実態を把握する。

(適した教材を選択)

- ・ 英語の音声に慣れていない生徒には、音(音素)への気づきを促すために、初頭音が同じものの絵を選ぶワークシートを作成する(例: C – car, cookie, cow, carrot, camera, cake, cat, corn, candle)。
- ・ 教科書の中のパラグラフを使って、生徒のスキーマを活性化させるようなディクテーションやディクトグロスのワークシートを作成する。

- ・教科書で習った文法事項を含んだ歌のワークシートを作成する（例：Help!・時制、代名詞、比較級など）。
- ・生徒が興味・関心を持っているテーマやトピックを扱ったビデオ教材を準備する（例：You Tube）。

*生徒のニーズ（項目3, 34, 40, 49, 54, 87を参照）

30. 生徒がリスニング教材に関心が向くよう、聞く前の活動を計画できる。

- ・教科書の単元タイトルを板書し、それから想像できるテーマやトピック、内容について、ペア・ワークやグループ・ワークによって生徒同士で（日本語による）ブレインストーミングする機会や時間を設ける。
- ・リスニング活動で扱う内容に関連した質問をいくつか用意し、生徒に英語で考えさせる（例：介助犬－Do you have a pet? Do you like dogs? What kind of dogs are service dogs?）。
- ・リスニング活動で扱う内容について、事前に宿題として調べさせて、生徒の問題意識を高めておく（例：地雷）。

31. 生徒がリスニング教材について持っている関連知識を利用し、効果的にリスニングができるよう促すことができる。

（生徒が持っている関連知識を利用する）

- ・生徒の興味・関心に合わせる。
- ・生徒の既習内容と関連づける。
- ・他教科との横断的な学習を検討する。
- ・話題となっている社会問題や時事問題を扱う。

32. リスニングストラテジー（要旨や特定の情報をつかむなど）の練習と向上のために、様々な学習活動を作成・選択できる。

（リスニングストラテジーの練習：ボトム・アップの場合）

- ・日本語と英語の違いに気づかせるように、英語の音素や音変化を聞き分ける練習を行う。

（リスニングストラテジーの練習：トップ・ダウンの場合）

- ・リスニング活動前に、教科書の単元タイトルを板書したり、絵や・写真を見せて、生徒に質問したり、生徒同士で話し合わせて、聞く内容を想像させる。
- ・リスニング活動前に、内容理解に役立つキーワードを先に与えておき、キーワードに着目して聞くように指示する。
- ・リスニング活動前に、リスニングの中に出てくる語句（難語・未習語を含む）や文法を事前に説明しておく。
- ・リスニング活動中に、想像したり、話し合った内容を確認しながら聞くようにさせる。
- ・リスニング活動中に、メモを取りながら（note taking）、キーワードを聞き取らせるようにする。

- ・リスニング活動中に、強く発音される語に着目させて聞くようにさせる。
- ・リスニング活動中に、シャドーイングをさせて音声の記憶を残すようにさせる。
- ・リスニング活動後に、聞く前に想像した内容と比べながら、生徒同士で聞き取った内容について話し合い、確認作業を行わせる。
- ・リスニング活動後に、キーワードや強く発音された語について発表させて、内容理解を促す。

33. 生徒が英語の話し言葉の特徴に気づかせるような学習活動を作成・選択できる。

- ・英語の音変化（連結、同化、脱落、短縮形）に気づかせるようなディクテーションのワークシートを作成する。
- ・英語の話し言葉では一語、二語、あるいは完全な文でなくても意味が通じるという特徴（断片発話（fragment utterance）、チャンク（chunk）など）を説明し、実際に生徒に（例：Tea or coffee?）。
- ・英語の話し言葉における冗長表現（言い直し（recast / repair）、言いよどみ（disfluency）、言い換え（paraphrase）、繰り返し（repeated utterances）など）について説明し、それが使われている映画やドラマの1シーンを見せる。

D. リーディング活動

34. *生徒のニーズや興味、到達度に合った教材を選択できる。

（動機付けを高める補助教材を使用する）

教員が選択する

- ・教科書本文と関連のある学習者向けに書かれた新聞（例：Student Timesなど）や雑誌記事（例：英語版アエラなど）を読ませる。
- ・生徒の到達度に合わせ、原文を安易な表現に書きかえる。または、簡潔に要約する。

生徒が選択する

- ・インターネット等から適切な情報を選択できるよう教示する。
- ・教科書本文と関連のあるテーマで生徒に情報検索をさせる（例：ガーナの障害者スポーツ選手についての本文があったとしたら、日本の障害者スポーツ選手について調べさせ、英語で報告できるよう本文に似通ったひな形を準備し、情報を埋めることによって完成できるようにスキヤフォルディングする。日本語で調べ、英語で報告させる。また、ガーナに焦点をあて、ガーナについて調べたり、他のアフリカ諸国について調べる活動をする。）

*生徒のニーズ（項目3, 29, 40, 49, 54, 87を参照）

35. 生徒が教材に関心が向くよう、読む前の活動を計画できる。

（興味付けをする活動をする）

- ・主題と関連した写真を見せ、その写真が何を表現しているか、ペアもしくは3名のグルー

プで話させ、数名に話した内容を発表させる。

- ・ タイトルを板書し、内容を推測する。(例：ペアもしくは3名のグループで話させ、数名に話した内容を発表させる。)
- ・ テーマと関連のある映像を見せたり、放送を聞いたりする。(例：読む前活動としては全編を視聴するのではなく、あくまでも興味付けなので、さわりの部分に留める。必要や時間的余裕に応じて、本文を読んだあとに残りを視聴する。)
- ・ 内容と関連した質問を投げかけ、考えさせる (例： Do you know 名前?, free divers の話しだったら、How long can you hold your breath?と聞き、実際に (危険のないように) チャレンジしてもらった上でDo you know how long free divers can hold their breath?と聞く、など)

36.生徒が文章を読む際に、持っている関連知識を使うよう促すことができる。

(持っている関連知識を使うよう促す)

- ・ 他教科と関連付ける。
- ・ 時事問題と関連付ける。

37.様々な文章の読み方 (例：音読、黙読、グループでのリーディングなど) を適切に行わせることができる。

(文章の読み方を工夫する)

音読

- ・ 教員が読み聞かせをする。(例：生徒は教科書をふせ、聴解をし、覚えていることについて2, 3名で話し合ったり、イメージしたことを描く)
- ・ クラスで一斉に、しかし各自のペースで音読する。(例：生徒が躊躇せずに声が出せるよう教員も一緒に音読する)
- ・ ペアになり、互いに読み聞かせをする (例：発話する際は本文を見ずに、相手の顔を見る： read, look up, speak)

黙読

- ・ 段落ごとに黙読させ、覚えている内容についてペアで話させる。

38.読む目的 (例：スキミング、スキヤニングなど) に合わせ、リーディングストラテジーの練習と向上のために様々な言語活動を展開できる。

(目的を設定してストラテジートレーニングをする)

スキヤニング

- ・ 新しい読み物に入る前、題名を板書し、本文の内容を推測する。
- ・ 題名と関連した語彙 (キーワード) を「スキヤニング」する。
- ・ 推測に基づき、関連語彙を「スキヤニング」する。時間制限などを設け、集中できるようにする。終了後、クラスで確認する。
- ・ Howeverなどの接続詞に焦点をあて、スキヤニングする。

スキミング

- ・新しい読み物に入る前、タイトルを板書し、本文の内容を推測する。
- ・第1段落目および最終段落を読み、主題を見極める。
- ・主題をクラスで確認したあと、各段落1文目を読み、読み取れたことを確認する

主題文・トピックセンテンスの選定

- ・各段落を読み、主題文・トピックセンテンスに下線を引かせる。
- ・各段落の主題を余白に書かせる。

新出単語の意味を文脈から推測する

- ・段落ごとの新出単語（もしくは意味の分からないと思う単語）に印をつけさせる、もしくは新出単語（キーワードとなるものを含む）を板書する。
- ・接頭語や接尾語、語幹の意味から推測する活動をする。
- ・同格の読点やthat isやin other words等の言い換えを教示する。
- ・文中に定義されていないか確認する活動をする。

能動的に読む：クエスチョニング・ストラテジー

- ・本文で難解な部分について質問を書かせる。（What does ... mean?, What does the author mean by ...?など）
- ・自分の意見(I agreeやI disagree because...など)を余白に書かせる。
- ・筆者に対する質問を余白に書かせる。（Why does the author say...?, How can the author be so sure that...?など）
- ・上記活動で使う表現を教示する。

39.リーディングとその他のスキルを関連付けるような様々な言語活動を選択できる。
--

（スピーキングと関連付ける）

リプロダクション

- ・段落ごとに黙読させ、ペアで内容を再生産（reproduction）させる。
- ・段落と段落のつながり、もしくは文と文のつながりを意識させる活動をする。（例：段落（もしくは一文）ごとのプリントを用意し、一人一段落（もしくは一文）配布する。各自配布された段落を黙読し、同じグループのメンバーと本文を見せあわずに、口頭で情報交換をし、話しの正しい順序に並べ替える。完成したら、話しの順番ごとに一列に並び、一人ずつ自分の段落（もしくは一文）を読みあげる。）

ストーリーテリング

- ・読んだ内容をペアの相手に分かりやすく伝える。（例：小学生の子どもに伝えることを前提とするなどの条件をつける。）

ディスカッション

- ・本文の主題に対する意見交換をグループでする（ディスカッション）。グループで話し合った内容をクラス全体に報告する。
- （ライティングと関連付ける）

- ・ 言い換え（paraphrase）の方法について教示する。
- ・ 生徒と対話をしながら、言い換え（paraphrase）をし、黒板・白板に見本を見せる。
- ・ 分かりにくい文を分かりやすい表現に自分の言葉で言い換え（paraphrase）る。
- ・ 要約の見本を見せる。
- ・ 穴埋め式の要約ワークシートを作成する。
- ・ 要約の方法について教示する。
- ・ 自分の言葉で、英語で要約する。
- ・ 読んだ内容に対する感想・意見を書く。

40.多読指導において、*生徒のニーズや興味、到達度に合った本を推薦できる。

（読み方や多読の目的を明らかにする）

- ・ 多読のガイドラインを提示する。（例：辞書は使わない、つまらなかつたら途中でやめる、など。）

（生徒のレベルに合った本・教材を選ぶ）

- ・ 生徒が自分のレベルに合った本を選べる活動をする。（例：①graded readersの各レベル1-2ページコピーし配る、②1ページ2,3分、1文に新出単語1,2個などの目安を提示し、いくつかのレベルを読ませ、適切なレベルを判断させる。）
- ・ 本を読むことを習慣化する。（例：毎授業最初の5-10分を読書にあてるなど）

（動機づけをする活動をする。）

- ・ 到達目標を設定し、進度を可視化する（例：5ページ読むごとに一マス塗りつぶし、到達目標を達成するとゴールにいたる、など。）
- ・ 読んだ本について話す機会をもうける。（例：同じ本を読んだもの同士で感想を述べ合ったり、それぞれおすすめの本（自分が読んだもの）について短い発表をする、など。）
- ・ 英語で発表できるよう初級学習者には穴埋め形式やひな形の提示によってタスクを単純化する。
- ・ 先生自身もおすすめの本の英語で発表をする。

*生徒のニーズ（項目 3, 29, 40, 49, 54, 87 を参照）

E. 文法

41. 生徒に適切な文法書や辞書を提示し、具体的にそれらを引用して説明を行え、またそれらを生徒が使えるように指導できる。

- ・ 教科書で扱う語彙やイディオムなどを使って、辞書の使い方を指導する。
- ・ ワークシートを使って、生徒にとって未知語が含まれる文を利用して、実際に生徒が辞書を使って、語彙の意味を調べる活動を行う。その際に、語彙には複数の意味があり、文脈から類推するなどのポイントを指導する。
- ・ 目標言語材料として教科書で扱った文法事項を説明し、さらに補足的に辞書の用例を示して、生徒自身の情報を使って英文を作成させる。

- ・ 学習した文法事項の理解と定着を深めるために、教科書の「文法のまとめ」を利用して、いくつかの文法事項の復習的な学習を行う。
- ・ 文法事項の参照など、生徒の自律的な学習を促進するために、適当な文法の解説書などの副教材を選び、その使い方を指導する。

42. 文法は、コミュニケーションを支えるものであるとの認識を持ち、使用場면을提示して、言語活動と関連付けて指導できる。

- ・ 助動詞の文法事項を学習する際に、**Could you ~? Will you ~?** といった用法を、生徒が理解、使用できるようにするために、店でのやり取りなど、丁寧に依頼し、それに応える場面を設定し、ロールプレイ活動を行う。
- ・ 動詞の過去形を学習する際に、日記形式の文を提示し、生徒に身近な出来事を書かせる活動を行う、
- ・ パラグラフライティングを学習する際に、英語の段落の特徴を説明し、説得力のある論を展開する際に必要な接続詞や表現などを指導する。

F. 語彙

43. 文脈の中で単語を学習させ、定着させるための言語活動を行うことができる。

(文脈の中での単語学習)

- ・ 新出単語を文章の中で提示し、文脈から意味を推測させる。
- ・ 新出単語を導入する際に、絵や写真を用いて意味を推測させる。
- ・ 既習の単語でも多様な意味があるため、知っている単語でも意味が文脈に合わない場合は辞書をひかせて意味を確認させる。

(定着させるための言語活動の例)

- ・ ビンゴなどを用いて、単語のつづりと意味の定着をさせる。
- ・ 教科書で学んだ単語に何度も触れることができるように、オーラル・イントロダクションで前課の既習単語を使用する。
- ・ 生徒が学んだ語彙を用いてライティングあるいはスピーキングによる自己表現をさせる。

44. ロングマンの辞書の語彙定義に使われる基本 2000 語を理解し、それらを使って英語で授業ができる。

(ロングマン辞書の基本2000語の理解)

- ・ ロングマンの辞書の語彙定義に使われる基本2000語とはおおよそ高校2年生までに習う語であると分かる。
- ・ 日本の学習指導要領（中学校2008年公示、高等学校2009年公示）では、中学校で指導する1200語、高等学校で指導する1800語に対応することを認識している。

(基本2000語を使って英語で授業ができる。)

- ・ 教室英語を使用する際に基本2000語を活用する。
- ・ 基本2000語を活用して、教科書の題材についてオーラル・イントロダクション

を行う。

45. 使用頻度の高い単語・低い単語、あるいは受容語彙・発信語彙のいずれであるかを判断し、それらを指導できる。

(使用頻度の高い単語・低い単語)

- ・英語母語話者の使用頻度が高い単語や学校生活及び日常生活で生徒が使用する単語は授業内でも使用頻度の高い単語であることを認識している。
- ・あまり使用しない固有名詞や専門的用語は使用頻度の低い単語であることを認識している。

(受容語彙・発信語彙)

- ・受容語彙とは目にしたり聞いたりしたときに単語を認識し意味を思い出せる程度の語彙で、発信語彙とは適切なときに言ったり書いたりできる語彙であることを認識している。

(語彙の指導)

- ・「模倣と理解を伴わない再生」、「理解」、「理解を伴った再生」、「表出（当該語彙を使用して文を作る）」という4段階で、受容語彙から発信語彙までを指導する。
- ・リーディングやリスニングで受容語彙を、ライティング、スピーキングで発信語彙を指導する。

G. 文化

46. 英語学習をとおして、自分たちの文化と英語圏の文化に関する興味・関心を引き起こすような活動を指導できる。

文化に関する活動ができるようになるための知識・技術（構成要素）には、次のようなものがある。

(英語学習)

- ・日本では、英語を外国語（EFL: English as a Foreign Language）として学習する・教える考え方と、国際語（EIL: English as an International Language）として学習する・教える考え方があることを認識している。

(文化的知識)

- ・「ことばと文化」に関する文献を読んだことがあり、基本的な知識を持っている。
- ・文化の概念についてある程度整理して述べることができる。
- ・日常生活・行事・ジェスチャー・発想・連想・スピーチレベル・論理などにおける日本と海外の文化的類似性と相違を、文化圏ごとにある程度整理して述べることができる。
- ・英語を母語とする国々（イギリス、アメリカ、カナダ、アイルランド、オーストラリア、ニュージーランド）が共有する文化的背景の基本的な知識がある（例：聖書、マザーグース、シェイクスピア、ギリシャ・ローマ神話、迷信・俗信、ことわざなど）。
- ・上記各国独自の歴史的・社会的背景（例：植民・移民、先住民、政治体制、地理的特徴、ヒーロー、文学、音楽、芸術、祝日、行事など）についての基本的な知識がある。
- ・英語の広がりや英語文化の多様性、特に、英語を公用語や第2言語としている国々における英語の役割と特徴について、基礎的な知識がある。

- ・ 日本を含めた国際社会が共有する文化的な話題（平和、環境、自然、科学、世界遺産、など）や時事問題に関する知識がある。

（活動の形態）

- ・ 文化的情報を知識として教えたり、ビデオを見せたり、辞書や百科事典で調べさせたり、また、個々の事実、情報の基底にある価値観、世界観などを教えたり、資料を与えて考えさせたり、調べさせたりする受信型の活動がある。
- ・ 日本の文化を海外に紹介したり、日本と海外の文化の類似点と相違点を論じたり、世界的な話題について自分の意見を発表したりするような発信型の活動がある（e.g. Show & Tell, Speech, Email, Discussion, Essay, etc.）。

III 教授資料の入手先

47. 生徒の年齢、興味、英語力に適した教科書や教材を選択する。

（場所）

- ・ 書店などで、本から。
- ・ 新聞や雑誌から。
- ・ ウェブページから。
- ・ テレビやラジオ番組から。
- ・ 市販のDVD等から。
- ・ 有料の教材から。

（方法）

- ・ 学習者の心理をつかむ努力している。
- ・ 学習者の興味関心を知る努力している。
- ・ 学習者の英語力を把握する努力している。
- ・ 学習者が属する年齢層が英語力を伸ばすために適した教材群を探そうとしている。
- ・ 学習者が興味を持つ教材群を探そうとしている。
- ・ 学習者が理解できる教材群を探そうとしている。
- ・ 学習者が発表に使いやすい教材群を探そうとしている。

48. 生徒の英語力に適した文章や言語活動を教科書から選択できる。

- ・ 生徒のだいたいの英語力を把握できる。
- ・ 生徒が自分で辞書を使わずに読むことが可能な文章を選択する。
- ・ 生徒が自分で辞書を使えば読むことが可能な文章を選択する。
- ・ 生徒が教員の手助けがあれば読むことが可能な文章を選択する。
- ・ 生徒が自分で辞書を使わずにできる言語活動を選択する。
- ・ 生徒が自分で辞書を使えばできる言語活動を選択する。
- ・ 生徒が教員の手助けがあればできる言語活動を選択する。

49. 教科書以外の素材（文学作品、新聞、ウェブサイトなど）から、*生徒のニーズに応じた聴解と読解の教材を選択できる。

文学作品、新聞、ウェブサイトなどを読んだり見たりするときに、

- ・ 学習者の興味関心を刺激する補助教材となりうるかを考えている。
- ・ 学習者が読んで英語力を高める補助教材となりうるかを考えている。
- ・ 学習者が利用して英語力を高める補助教材となりうるかを考えている。
- ・ 学習者が語彙を定着させるのに役立つ補助教材となりうるかを考えている。
- ・ 学習者が文法を理解するのに役立つ補助教材となりうるかを考えている。

*生徒のニーズ（項目3, 29, 34, 40, 54, 87を参照）

50. 教科書付属の教師用指導書や補助教材にあるアイデア、指導案、教材を利用できる。

（教科書付属の教師用指導書や補助教材にある）

- ・ アイディアを自分の学習者用に合わせて利用できる。
- ・ 指導案を自分の学習者用に合わせて利用できる。
- ・ 教材を自分の学習者用に合わせて利用できる。

51. 生徒に適切な教材や活動を自ら考案できる。

- ・ 教科書の例文を指導する時に、学習者が情景とともに例文を記憶できるように工夫している。
- ・ 教科書にある言語活動の発展版を行わせるときに学習者がすぐ活動に入っていけるように情景を工夫している。
- ・ 『英語教育』や『新英語教育』で授業実践などの記事を読んでいる。

52. 生徒に役に立つ辞書や参考書を推薦できる。

- ・ 日ごろから、学校に送られてくる参考書や辞書の見本を良く研究している。
- ・ 日ごろから、書店で学校に送られてこない参考書や辞書を良く研究している。
- ・ 日ごろから、電気店等で電子辞書を良く研究している。

53. 情報検索のためにネットを使えるように生徒を指導できる。

- ・ 自分が情報検索のために日ごろから英語のサイトで情報を検索している。
- ・ 自分の学習者が利用できる英語のサイトの情報を集めている。
- ・ 英語のサイトで使われる基本的な単語について学習者に指導できるように語彙リストを作成している。

IV 授業計画

A. 学習目標の設定

54. *生徒のニーズを考慮し、*学習指導要領の内容に沿った学習目標を立てることができる。

- ・ 生徒が英語をうまく発音したいという期待を考慮し、教科書の単元で扱う語彙や表現を使用して、語と語の連結や語、句、文における強勢など英語の発音の基礎を理解し、学習目標を設定する。
- ・ 生徒が英語で話したいという希望を考慮し、教科書の本文を暗唱して発表することや教科書の単元のテーマに沿って自分の考えをまとめ、そのスピーチを発表するなどの学習目標を設定する。
- ・ 生徒の英語が使用されている国や地域への関心やあこがれを考慮し、教科書の単元で扱われている地域や人々の生活や文化について発展的な情報を提供し、その理解を深めさせる。
- ・ 生徒が授業に関心を持った題材をさらに深く学びたいという希望を配慮し、教科書の単元のテーマや言語材料に関連した発展的な自習教材（英字新聞、雑誌などの記事）を提供する。
- ・ 生徒の定期試験や受験での対応力向上への関心に配慮し、語彙や文法項目の定着を目指して、読み取りの活動で受信用の語彙力を伸ばしたり、文型練習に既習語を意図的に加えて復習するなどの学習目標を立てる。

*生徒のニーズ（項目3, 29, 34, 40, 49, 87を参照）

*学習指導要領（1, 3を参照）

55. 年間の指導計画に即して、授業ごとの目標を設定できる。

- ・ 例えば、聞く力に関しては、「日常生活の身近な話（セールの情報、地域のイベントなど）を理解することができる。」というような、1年間でどのような英語力を身につけさせるか配慮し、教科書の単元を年間でどのように配分するか、年間の指導計画を立てる。
- ・ 年間の指導目標を元に、月単位での目標を設定する。例えば、「教科書の単元全体の文章を聞いて、その内容を理解できる」など。
- ・ 月単位の指導計画を元に、週間および個別の指導計画を立てる。例えば、「教科書のパート毎のALTの英語の質問を理解できる」など。

56. 生徒の意欲を高める学習目標を設定できる。

- ・ 教科書の新しい単元の題材に興味を持たせ、意欲的に学習に取り組ませるように、写真や映像などを使って具体的な情報を提供する。
- ・ 教科書の単元を学習する際に、例えば買い物の題材ならば、「自分の買いたいものを店員に伝えることができる」などのCan-do項目を提示し、具体的に自己評価できるような学習目標を設定する。
- ・ 各単元の最終目標としての自己表現活動の目標を事前に示し、その活動に向けて生徒が

取り組む課題を理解し、意欲的に取り組むことができるような学習目標を設定する。

- ・ 協働学習を促進し、生徒同士が互いに協力して学習に取り組めるような学習目標を設定する。

57. 生徒の能力やニーズに配慮した目標を設定できる。

- ・ 生徒が英語のテレビ放送や映画などをもっと理解できるようになりたいという期待を理解し、教科書の単元に関連した視聴覚教材や英語の歌などを使って、聞き取り能力の向上を目指した学習目標を設定する。
- ・ 生徒が辞書なしで英語の物語を読みたいという期待を理解し、読解力向上のために、読解力に配慮しながら、一学期間で読むべき本の冊数など目安を提示するなどの多読活動を活用した学習目標を設定する。
- ・ 生徒が自己評価として定期試験での成績への関心を理解し、それまで学習した単元毎の語彙や言語材料をまとめて提示し、その理解と定着を自己判断できることを目指した学習目標を設定する。
- ・ 英語力を低、中、高の3レベルに分け、学習目標をそれぞれ設定できる。例えば、中学校の例として、夏休みに何をしたいかという課題に対し、英語力の高い生徒は語彙の量的、内容の複雑さにおいて充実したものを書けるような目標を設定し、中位の生徒にはモデル文の情報を自分の例と置き換えて、書けるように目標を設定する。低位の生徒には言語材料として、例えば未来形の文法事項の理解と定着を目指し、基本的な文例を示し、その文例に沿って自分の情報を使って書くなどの目標を設定する。

58. 年間の指導計画に基づいて、「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の4技能それぞれに観点別評価の目標を設定できる。

- ・ 中学校、または高校の教科書の単元毎の評価として、4技能それぞれに「関心・意欲・態度」、「理解の能力」、「表現の能力」、「言語や文化の知識・理解」の4つの観点において、以下の具体例のような目標を設定する。
- ・ 「聞くこと」における「理解の能力」では、例えば、買い物の場面の店員と客のやり取りを聞いて、客が何を買いたいのか理解できるように目標設定する。
- ・ 「話すこと」における「表現の能力」では、例えば、教科書で美術作品を扱った時に、自分の好きな絵について話せることができるように目標設定する。
- ・ 「読むこと」における「言語や文化の知識・理解」では、例えば、異文化的な内容の題材を扱ったときに、その国の文化について、生徒が社会科などの教科ですでに身につけた知識を活用して、教科書の記述を正しく理解できるようになることを目標設定する。
- ・ 「書くこと」における「関心・意欲・態度」では、例えば、異文化を扱った題材に対して、その国と日本の文化の違いなどについて簡単な英語での作文を書かせるように目標を設定する。

59. 生徒に自分の学習を振り返り、やる気を起こさせるような目標を設定できる。

- ・ 毎回の授業の学習活動で、自分がどのような活動をし、何を学ぶことができたのか振り返ることができるように、ポートフォリオを使った学習目標を設定する。例えば、「乗り物に関する語彙を覚えた」「教科書の内容を十分に理解できた」「ペア・ワークで相手の質問に答えることができた」など。
- ・ スピーチなどの自己表現に関する学習活動に取り組む際に、事前に活動の評価項目を渡しておき、その点に留意して準備できるような学習目標を設定する。
- ・ プレゼンテーションやスキットなどの発表形式の学習活動に取り組む際に、評価用紙を使用して生徒自身が相互評価を行い、学習活動を振り返る際の観点を常に意識できるような学習目標を設定する。
- ・ ペアやグループの調べ学習とその発表などの言語活動を行ったときに、活動終了後に反省点を述べ合う場を設定し、さらに良い活動にするにはどうしたらよいのか考える機会を与えるような学習目標を設定する。

B. 授業内容

60. 年間の授業計画に基づいて、一貫しかつ多様な指導計画を立案できる。

- ・ 年間指導計画で4技能の習得目標をそれぞれ設定した場合、その目標達成への指導方針が一貫している。例えば、書くことの技能向上では、1年を通じて、日頃から生徒自身が身近に経験したことについて自分の考えを書き留めるなどの学習活動を行う指導計画を立てる。
- ・ 話すことの向上を目指して、挨拶や指示など日常の授業で教師と生徒の使用する英語を自動化し、年間を通して、生徒が使用する英語の量を増やす工夫をする。
- ・ 月単位で扱う単元とその授業回数を元に、個別の授業で扱う文法事項や語彙や表現といった言語材料と、四技能の内、どの技能を特に中心として扱うのかを具体的な使用場面を設定して計画する。例えば、題材がラジオ番組でスポーツ選手へのインタビュー放送を扱っていた場合、理解と定着を計る目標言語材料はwh-questionsで、質問する能力とそれを聞き取り答える能力の向上を目標として、生徒同士のインタビュー活動を設定する指導計画を立てる。

61. 「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の4技能が総合的に取り込まれた指導計画を立案できる。

- ・ 実際の生活における言語活動を想定し、リスニングとスピーキングの統合した活動計画を立てる。具体例として、聞き取った電話の内容を他の人に伝えるなど。
- ・ 「聞くこと」と「読むこと」の統合した活動計画を立てる。具体例として、ラジオ放送で聞いたニュースについて、新聞や雑誌の記事で確認するなど。
- ・ 「聞くこと」と「書くこと」の統合した活動計画を立てる。具体例として、ディベート活動において、相手の言った内容をメモにまとめて、それに反論する意見を書き留めるなど。

- ・ 「読むこと」と「話すこと」の統合した活動計画を立てる。具体例として、商品のカタログを読んで、その商品を電話で注文するなど。
- ・ 「書くこと」と「話すこと」の統合した活動計画を立てる。具体例として、スピーチの原稿を作成し、それをクラスで発表するなど。
- ・ 「読むこと」と「書くこと」の統合した活動計画を立てる。具体例として、手紙を受け取り、その返事を書くなど。

62. 言語や文化に関心を持たせる指導計画を立案できる。

- ・ 歴史と文化への関心を高めるために、例えば世界遺産を取り上げ、自分が将来訪ねてみたい地域について調べて、発表させる指導計画を立てる。
- ・ 発展途上国の子どもの現状と日本の現状を比較して考えさせるために、例えば、アジアのフォスター・プログラムを取り上げ、海外の子どもたちの日本とは大きく異なる生活について知り、考えさせる指導計画を立てる。
- ・ 言語と生活習慣などへの関心を深めるために、例えばニュージーランドのマオリ族の言語や生活習慣を取り上げ、地域の独自性を知り、自分たちの文化と比較し、考えさせる指導計画を立てる。

63. 文法学習や語彙学習をコミュニケーション活動に統合させた指導計画を立案できる。

- ・ 語彙力を強化するために、例えば教科書の動物を扱った単元で、生徒同士で写真や絵を利用して、次のような質問形式のやり取りを行う。**Q: How many (lionsなどの動物名) can you see in this picture? A: I can see (数) lions.** または**Q: How do you say (動物名) in English? A: It is a penguin.**
- ・ 文法指導を行う際に、タスク活動を利用した指導計画を立てる。例えば、文法項目の比較級を理解させ、定着させようとするときに、生徒が店員になって、ライバル店より自分の品物が優れている情報を述べたり、客になって商品を比較して、両者の違いを質問するといった、実際の情報伝達を意識した活動を計画できる。

64. 目標とする学習活動に必要な時間を把握して、指導計画を立案できる。

- ・ 年間の指導計画を元に、教科書の単元ごとの指導案を作成する。
- ・ 指導案の構成として、その単元が扱う題材と言語材料を考慮し、全体の大きな目標から、個別の授業ごとの目標に沿って活動計画を立てる。
- ・ 予定した時間では学習活動が終了しなかったり、予定より早く終わってしまった場合も考慮して、指導計画を立てる。
- ・ 生徒の理解や定着が目標にしていた到達度に達しなかった場合、追加的な学習が必要なことも考慮して、指導計画を立てる。
- ・ 教科書で携帯電話の使用について賛否両論の意見が述べられた内容の本文を読み取り、その内容を基に携帯電話を使用する上でのメリットやデメリットを箇条書きの英文にまとめさせるといった活動に、それぞれどのくらいの時間が必要か予測し、指導計画を立て

る。

65. 生徒がこれまでに学習した知識を活用した活動を設定できる。

- ・ 生徒がそれまでに学習した語彙を復習できるように、いくつかの単元をまとめて、絵や写真を利用したワークシートを使ってコミュニケーション活動をさせる。
- ・ 生徒がそれまでに学習した文法項目を復習できるように、いくつかの単元をまとめて、店での買い物の場面や道案内の場面などを想定し、ペアやグループのコミュニケーション活動をさせる。
- ・ 環境問題などの教材を扱うときに、生徒がそれまで他の教科で学習した知識を活用して、環境問題の例を発表させる活動を設定する。社会的な問題や歴史などに関連した教材でも同様の活動を設定する。

66. 生徒のやる気や興味を引き出すような学習活動を設定できる。

- ・ 学習した言語材料の理解と定着を目指して、生徒自身の情報を活用する学習活動を設定する。例えば、3人称単数形の文法事項を学習した時、写真を使って、**This is my favorite singer. He / She likes ~.**というように、生徒自身が好きなアイドルやマンガのキャラクターを紹介する活動を設定するなど。
- ・ 授業内の英語使用を活発化させるために、**warming-up**活動として、**My Favorite Music / Actor / Actress / Sport**などのテーマで**small talk**などの活動を設定する。
- ・ 教科書の内容の理解をペアで確認する活動として、インフォメーション・ギャップを利用した学習活動を設定する。
- ・ 視聴覚教材を活用して、生徒の興味を喚起する活動を設定する。例えば、自然保護の教材を扱う場合、動物の生態の映像を見せて、その印象を簡単に英語でメモさせたり、それを元に生徒同士で質問する学習活動を設定する。
- ・ 教科書の単元の最後の発信的な活動を、学習の最終の目標活動として提示し、その目標を意識して単元を学習できるように目標設定する。
- ・ 生徒の協働学習を促進させるために、コミュニケーション活動がスムーズにできるような人間関係を構築できるような配慮を行う。例えば、自己表現活動に慣れさせることを目指して、教材のテーマ（音楽、環境、地域）に沿って、それぞれの好みや意見などの情報を交換しながら互いの信頼関係を築くことを目指すなど。

67. 生徒の学習方法に応じた学習活動を設定できる。

- ・ 生徒の学齢による興味や関心を理解し、それに適した学習活動を設定する。例えば、小学校の高学年や中学1年では英語学習の入門期に当たるので、細かい言語的なルールを解説し、理解させようとするよりも、音読活動やジャズチャンツなどの教材を利用した音声面に慣れることを目指した学習活動を行う。
- ・ 生徒の知的関心を喚起するような題材を扱うとき、生徒がそれまでに学んだ知識を活用し、さらに発展的に調査を必要とする発表形式の学習活動を設定する。

68. 生徒の反応や意見を、授業計画に反映できる。

- ・ 新しい言語材料の学習で、生徒の理解度が十分でないと判断した時、次の授業において補足的な学習を計画する。
- ・ 新しい単元の導入の際、題材を紹介し、関心を持たせるための教師と生徒、あるいは生徒同士の活動が不活発な場合、改善点を分析して、次の授業計画に活用する。
- ・ 学期ごとの生徒の授業アンケートを基に、それまでの授業の取り組みを省察し、その後の授業計画に活用する。

C. 授業展開

69. 学習目標に沿った授業形式（対面式、個別、ペア、グループなど）を選び、指導計画を立案できる。

- ・ 教科書の新出語句の意味や用法を理解させたい場合は、フラッシュカードを用いて、発音練習させたり、意味を確認させる指導計画を立てる。
- ・ 教科書の本文を正確に音読させたい場合は、個人やペアでの練習の際に、机間巡視し、発音が苦手な生徒を個別に支援する。四技能の内、例えば「読む力」の向上を目指して、学習させようとする場合は、その学習目標に沿って、生徒各自が自分のペースで多読や精読に取り組むような授業形式を選ぶ指導計画を立てる。
- ・ 四技能の内、例えば「読む力」と「話す力」の向上を目指して、学習させようとする場合は、ペア活動形式で相手の書いた手紙やコメントを読み、それについて意見を言うなどの異なる技能を統合させた活動計画を立てる。

70. 生徒の発表や生徒同士のやりとりを促す活動計画を立案できる。

- ・ ウォーミング・アップ活動として、簡単なwh-questionsを書いたカードを配布し、生徒同士で好きな食べ物、スポーツ、音楽など自分たちに関連した情報について、質問し合う活動を設定する。
- ・ 授業で学習した言語材料の応用を目標に、発展的な活動を設定する。例えば、**There is (are)**の表現を学んだとき、生徒同士で自分の家の近隣にある施設（公園、図書館、駅）を伝え、どのように利用しているかを伝え合う活動などを設定する。
- ・ 英語の自己表現能力の向上を目標とした授業の場合、単元で扱ったテーマに沿ったスピーチを行い、クラスの前で発表する授業計画を立てる。
- ・ 課題の英語で書かれた物語の感想文などを生徒同士で交換し、共感した内容や解釈の違いなどを報告しあう。
- ・ 生徒の自律性を促すために、授業で学習した内容について、生徒自身がさらに調査して、発表する活動計画を立てる。例えば、環境問題についての単元では、個人やグループで自分の関心がある環境問題や自分の近隣の環境問題について調査し、発表する計画を立てる。

71. 英語を使うタイミングや方法を考慮して、授業計画を立案できる。

- ・ 新しい単元の導入の際、扱う題材に対して生徒の興味や関心を持たせるために、写真やビデオなどの視聴覚教材を使って、教師と生徒、および生徒同士の英語で互いに知っていることをやり取りする授業計画を立てる。
- ・ 夏休みなどの長期の休みの後などに、生徒自身が行った活動について、ショートスピーチを行う授業計画を立てる。
- ・ 学習した文法事項や表現などを使った、生徒同士のコミュニケーション活動を考案して授業計画を立てる。例えば、関係代名詞を学習したときに、What Am I?クイズとして、次のようなやり取りを行う。A: What am I? I am a person who builds a house. B: Well, I think you are a carpenter.
- ・ 教科書の単元で、「若者の携帯電話の使用」といった論議の対象となるテーマを扱った際に発展的な取り組みとして、グループでディベートを行う授業計画を立てる。

72. 指導教員やALTとのチームティーチングの授業計画を立案できる。

- ・ ペアやグループでのやり取りを中心とする学習活動を行う際に、ALTとのチームティーチングで、そのモデルを示す授業計画を立てる。
- ・ 英語が話される国の情報源として、ALTが、アメリカやイギリス、オーストラリアといった自国の文化を紹介する学習活動を取り入れた授業計画を立てる。
- ・ 生徒がALTにインタビューを行う授業計画を立てる。
- ・ ペアやグループの活動の際に、指導教員やALTと共に、各グループの質問を受けたり、活動を促進する助言を行う授業計画を立てる。
- ・ 授業後に指導教員の指導的なフィードバックを受けることを前提とした、チームティーチングの授業計画を立てる。

V 授業実践

A. レッスン・プランの使用

73. 生徒の関心を引きつける方法で授業を開始できる。

(生徒の関心を引きつける方法)

- ・ 挨拶を英語で行ない、英語の授業への雰囲気を作る。
- ・ 生徒の学校や家庭における生活を話題にする。
- ・ 生徒の話題に関連させて、教師が英語で語りかける。
- ・ 教室英語を多用し、英語の授業が開始することをしっかり意識させる。
- ・ 英語の歌や本時の内容と関連した視聴覚教材などを用い、心理的負担を取り除く。
- ・ 前回の授業までの既習内容を復習し、新出内容に備える。

74. 指導案に基づいて柔軟に授業を行い、授業の進行とともに生徒の興味に対応できる。

- ・ 本時の主な達成目標を把握し、指導案の流れを理解する。
- ・ 各活動の目的を理解し、目的によって、教師の説明、個人での活動、ペア・ワークやグループ・ワークなど活動の形態を変える。
- ・ 各活動の手順を理解し、わかりやすい英語や例を用いて指示する。
- ・ 各活動の内容によって、わかりやすく板書したり、視聴覚教材などを適切に取り入れる。
- ・ 生徒の理解度を適宜モニターし、必要に応じて具体例を追加したり、補助教材を取捨選択する。
- ・ 具体例として以下75～83を参照する。

75. 予期できない状況が生じたとき、指導案を調整して対処できる。

(予期できない状況)

- ・ 教師の指示や説明に思ったより時間がかかる、あるいは計画よりスムーズに進む。
- ・ 個人での活動やグループでの活動に思ったより時間がかかる、あるいは計画よりスムーズに進む。
- ・ 生徒が教師の発問に答えられない。
- ・ 生徒からの予想外の質問や反応がある。

(調整・対処の方法)

- ・ 教師の発問・説明・指示を反復したり、より簡単な語句を使って言い換えたり(たとえば“Raise your hands.”を生徒がわからない場合、教師が自分も片手を挙げて“Put your hands up.”と言い直す、など)、生徒の身の回りと関連するヒントを与えて答えを引き出す。
- ・ 言語活動を始めたり、答えをクラス全体で合わせたりする前に、生徒同士でペアになってお互いに理解の確認を行わせる。
- ・ その授業の一番重要な指導項目と、端折ったり次回の授業に回してもよい項目にあらかじめ分けておく。
- ・ 早く終わった生徒やグループ用に、別の関連した、もしくはより発展的な活動(例：活動で練習した表現や文法項目を使って文章を自由に書く、など)を行う。
- ・ クラス全体でより発展的な活動(例：読んだ内容についてどう思うかについて話し合ったり、書かせたりする、など)を行う。
- ・ 時間内に活動が終わらない場合(たとえばペアで「予約をする」状況について短い会話文を作成し、時間内に終わらない場合)は宿題とし、次回に確認したり発表したりする。
- ・ 次の授業で前回理解が難しかった点を復習する。
- ・ 次の授業で前回理解が難しかった点を練習する別の活動を行う。

76. 生徒の集中力を考慮し、授業活動の種類と時間を適切に配分できる。

(授業活動の種類と時間)

- ・ 生徒の理解度や目標の難易度によって柔軟に時間配分する。たとえば「導入」と「展開」

を同時に行い30分くらい時間をかけたり、授業の最初「復習」に20分ほど重点的に時間をかけたりする。

- ・ 教師の一方的な説明だけでなく、生徒自身が考えたり、他の生徒と話し合ったりする時間を設ける（たとえば未来形 **will/be going to** を導入する際に、二つの違いを教師が説明するのではなく、例文を提示し、まずは生徒自身が一人で数分考え、そのあとペアになって話し合う時間を 5 分設ける）。
- ・ 教師の説明や板書内容の理解のための時間と、ノートに書き写す時間を明確に分ける。板書事項はあらかじめ決めておき、内容が一目で理解しやすいように配置や量を確認する。
- ・ 活動の目的や内容に応じて、個人で行う活動、ペア・ワーク、グループ・ワークなど活動の形態を変え、それぞれ適切に時間配分する。たとえばインフォメーションギャップの活動を行う場合、まず自分に与えられた情報を確認したり教師にわからない語句などを質問する時間（3 分）、ペアになって情報を交換し、会話の型などを練習する時間（5 分）、ペアでできた会話文をクラス全体の前で発表する時間（10 分）など。
- ・ 個々の活動にかける時間が長くなりすぎないようにする。
- ・ 生徒個人の成果やグループ・ワークの成果を発表する時間を設ける。

B. 内容

77. 授業内容を、生徒の持っている知識や身近な出来事や文化などに関連づけて教えられる。

（授業内容を生徒の興味・関心と関連づける）

- ・ 生徒の背景知識や個人的な経験を引き出し、授業の内容と関連付ける。たとえば新しい課のテーマが「ボランティア」の場合、生徒に今までどのようなボランティア活動をしたことがあるか、今後どのようなボランティアをしてみたいか、ボランティアをする意義は何だと思うか、など質問し、反応を引き出す。
- ・ 導入した単語や概念、テーマが生活のどこでどのように使われているかを生徒に考えさせる。
- ・ 身近な出来事やニュースを授業内容と関連付ける。たとえばノーベル賞の提唱者であるノーベル氏について読解する場合、最近日本でノーベル賞を受賞した人の名前をまず生徒から引き出す。
- ・ 他教科の内容を授業内容と関連付ける。たとえば「酸性雨」について読解する場合、社会科や化学などの授業で日常生活の中で何が燃料として使われると学習したかをまず生徒から引き出す。

C. 生徒とのインタラクション

78. 授業中、生徒の注意をそらすことなく授業に集中させることができる。

（授業への集中）

- ・ 声の大きさや話す早さ、アイコンタクトに留意し、教師が英語話者としてのモデルになる。
- ・ 教師の英語による指示や説明などに対する生徒の理解度を確認する。

- ・ 生徒から反応や情報を引き出しながら導入・説明する。
- ・ ひとつの活動にかかる時間はなるべく短くし、生徒が英語を使うよう工夫する。
- ・ 十分に内容を理解できない生徒に対応する。
- ・ クラス全体を見て、活動がスムーズに進んでいるか把握する。

79. 生徒中心の活動や生徒間のインタラクションを支援できる。

(生徒間のインタラクション)

- ・ 学習した言語材料を用い、定着するような活動を考える。たとえば未来形を導入した後に未来の予定(週末の予定や夏休みの計画など)について話し合う活動、など。その際に、言語活動で用いる対話例や質問(例: Do you have any plans for this weekend?)などを活動前に口頭練習したり、使えそうな表現を与える(例: go on a trip, do homework, practice baseball)。
- ・ 生徒が自分の生活や考え、感情と関連付けて発話できるような言語活動を与える。たとえば“want to infinitive”を導入した後に、将来になりたい職業やその理由について話し合わせる。
- ・ 英語での発話に自信を持ち、顔を上げ目を見て話すように促す。
- ・ グループ活動において、生徒に明確な役割(司会、まとめ役、メモ取りなど)を与える。
- ・ 生徒の英語力の差を考慮し、ペアやグループの組み合わせを考える。

80. 生徒の様々な学習スタイルに対応できる。

(様々な学習スタイル)

- ・ コミュニケーション主体の活動や、文法知識に関する分析的な学習活動など多様な言語活動をバランスよく用意する。
- ・ 視覚的情報を好む「視覚型」学習者には説明の際に文字や絵、図、実物などを利用したり、耳からの情報を好む「聴覚型」学習者のために口頭やCDなどの音声情報を与えたり、体を動かしたり触れるものを使用することを好む学習者のために、立ち上がって教室を移動しながら情報を探す活動を行ったり、異なる優先感覚を持つ学習者に配慮して様々な言語活動をバランスよく用意する。
- ・ 個人で学習することを好む学習者とグループ学習を好む学習者に配慮し、グループで情報を交換したり話し合ったりした後には個人でわかったことをまとめる時間を与える、など、様々な言語活動をバランスよく配分する。

81. 生徒が学習ストラテジーを適切に使えるように支援出来る。

(学習ストラテジーの指導)

- ・ 学習者に自分がこれまで使ってきたストラテジーを考えさせる。たとえば知らない単語を見つけた場合、前後の文脈から意味を推測する、辞書を引く、接頭辞や接尾辞から意味を推測する、など。
- ・ 教師が言語活動に適したストラテジーを説明し、実際にやってみせる。たとえば、パラグラフを読む際に、まずどのセンテンスを読み、そのあとはパラグラフのどの部分を読む

と効果的にパラグラフの大意が把握できるか、を実際のパラグラフを提示しながら実際にやってみせる、など。

- ・ 学習者が説明されたストラテジーを実際に練習するための活動を与える。たとえば、いくつかのパラグラフを実際に読んで大意を把握してみる、など。
- ・ 学習者に活動に適したストラテジーを選択させる。たとえば、読解の際にわからない単語が出てきたらどのようなストラテジーが使えるかをまず話し合い、その後、実際に大意を把握するという目的でパラグラフを読ませ、どのストラテジーがよいか選択させる、など。
- ・ 言語活動前に学習者に目標を設定させる（たとえば、辞書を使わずになるべく早くテキストを読む、など）。
- ・ 言語活動後、学習者に自分のストラテジーの使い方について自己評価させる。

D. 授業運営

82. 個人学習、ペア・ワーク、グループ・ワーク、クラス全体などの活動形態を提供できる。

（様々な活動形態）

- ・ 教師の説明の内容理解、テキストの音読や黙読、ペア活動に入る前に活動で使われる表現の発音確認、グループ・ワークに入る前に自分の考えのまとめ、グループ・ワーク後に練習した表現を使って自由に書く活動、など個人学習に適した活動を提供する。
- ・ 役割を与えて二人一組で行う対話練習や、道案内や二つの絵の間違い探しなど異なる情報を二人に与えて解決方法を見つけさせるインフォメーション・ギャップ練習など、ペア・ワークに適した活動を提供する。
- ・ お互い異なる情報を交換しながら「犯人探し」を行ったり、順不同に並べられたパラグラフの部分部分を話の展開を考えながら並び変えたり、話し合って優先順位やランク付けを決める、など与えられた課題を相談しながら解決方法を見つける、グループで行うことに適した活動を提供する。
- ・ 教師の説明の内容理解、語彙習得のためのビンゴゲーム、ペア・ワークやグループ・ワークで使用する対話や表現の練習、教師の後についてのテキストの初めての音読、グループ・ワークでわかったことの報告、などクラス全体で行うことに適した活動を提供する。

83. フラッシュカード・図表・絵などの作成や視聴覚教材が活用できる。

（視聴覚教材の作成・活用）

- ・ 単語の発音、綴り、意味を導入する際に提示するフラッシュカードやパワーポイントのスライドなどを効果的に作成する。
- ・ 英語を日本語に置き換えるだけではなく、実物や絵を使って示したり、単語が使われる文脈を提示する。
- ・ 内容が理解しやすいよう絵や図表を利用して提示する。
- ・ 内容が理解しやすいようプリントや板書のレイアウトに工夫をする。
- ・ 場面説明のためのピクチャーカードを使用する。

- ・ DVDやCDなどの音声を用いて、読解内容の大意を聞きとらせたり、前回までの内容を振り返らせたりする。

E. 教室での言語

84. 英語を使って授業を展開するが、必要に応じて日本語を効果的に使用できる。

(英語を使って授業を展開するーTPR)

- ・ 教師がモデルとして自ら動作をして、生徒に指示の意味を理解させる。
- ・ 教師は説明するよりやってみせる。
- ・ 教師は「分らない」と言わせない覚悟を持ち、生徒に英語活動の時間は英語でがんばろうということを了解させる。
- ・ 教師が指示し、生徒に教師と一緒に動作をさせる。
- ・ 教師が指示し、生徒だけで動作を行わせる。
- ・ 指示の順や組み合わせに変化をつけて、動作を連続して行わせる。
- ・ 生徒が相互に指示を出し、動作し合わせる。

(英語を使って授業を展開するー英語を使う時のポイント)

- ・ 最後まではっきりと言い切る。
- ・ 目線を合わせる (eye contact)。
- ・ いつも生徒から見えてところにいる。
- ・ 声の調子に気をつける。
- ・ 言葉以外のコミュニケーション方法を活用する (実物、実例を見せる、絵に描く、ジェスチャーを活用する、顔の表情)。

(必要に応じて日本語を効果的に使用できる)

- ・ 英語と日本語の使い分けを前もって計画しておく (授業を運営する時にはどのような表現を使うか、どの表現が簡単で英語でもできるか、どの表現が日本語でされるべきか、など)
- ・ 英語で指示を出してから日本語に訳すことはせずに、状況に応じて英語か日本語のどちらかを使う方が良いかを考える。
- ・ 教師が日本語を使い始めると、生徒は英語を聞く努力をしなくなり、日本語を待つ習慣が身についてしまうので注意する。しかし、全てを英語で言ってしまうと、混乱や学習意欲を招くことになるので、とりわけ学習の初期段階には日本語が重要な役割を持つことも忘れないようにする。
- ・ 生徒の理解度を確認するには、教師が①生徒をよく観察する、言葉で確認する。例えば、理解していないであろう生徒の気持ちをくみ取るような言葉かけをしたり (例: Is that right? What do you think? Put up your hand if you don't understand.)、与えた指示の内容を日本語で言わせてみる (例: Tell me in Japanese what I said.)。

85. 生徒が授業活動において英語を使うように促すことができる。

- ・ 英語を使って授業をすることの必然性を生徒に理解させる。英語の指示の意味を教える

時には、授業の中で初めてその表現を使う場面が出てきた時にその場で教えるようにする。なぜならば、生徒がその場でその表現の意味を知ることには必然性があるからである（例：ゲームをする時にジェスチャーを交えながら、**Make a group of four.**と指示を与えて4人のグループを作らせる）。

- ・ 英語を使って授業する、教室英語を教えていくことを通して、生徒に授業の場面において新しい表現を学んでいることを実感させるようにする。つまり、英語がコミュニケーションの手段であることを体感させることができる（例：**Very good, well done.**と言って生徒を褒める）。

VI 自立学習

A. 学習者の自律

86. 生徒が自分で目標や学習計画を立てる手助けや指導ができる。

（目標の種類）

- ・ 大きく分けて、1学期あるいは1年間の短期目標、卒業時までの中期目標、卒業後将来にわたる長期目標の3つが考えられる。

（目標の例）

- ・ 短期目標

(1) 昨日の出来事についての英語の会話を8割程度聞きとることができる。

(2) 昨日したことについて、1分間英語で会話を続けることができる。

(3) 昨日したことについて、5文以上の英文が書ける。

- ・ 中期目標

(1) 英語を聞くことに慣れ親しみ、初歩的な英語を聞いて話し手の意向などを理解できる。

(2) 英語で話すことに慣れ親しみ、初歩的な英語を用いて自分の考えなどを話すことができる。

(3) 英検2級に合格する。

- ・ 長期目標

(1) 海外旅行先で英語で日常会話ができる。

(2) 英語圏の留学先で英語で日常生活が送れ、授業を受けることができる。

(3) ビジネスの場で英語で交渉ができる。

（目標を立てる手助けや指導）

- ・ 年度あるいは学期の初めに授業で各自が目標を立てる時間を設ける。
- ・ 昨年の先輩の目標例を提示し、生徒に具体的な目標のイメージを湧かせる。
- ・ 生徒同士で目標のブレインストーミングをさせる。
- ・ 短期目標は、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどの観点別で目標を立てさせる。
- ・ 各自が立てた目標を生徒同士で共有させ、目標が具体的でない場合は修正させる。

（学習計画を立てる手助けや指導）

- ・ 年度あるいは学期の初めに、学習計画を立て提出させる。
- ・ 学習計画を立てる際に、短期目標を達成するための行動を書かせる。（例：1日5回、教科書の音読をする。1日5文以上の英文日記をつける。）

87. 生徒が*各自のニーズや興味に合ったタスクや活動を選択する手助けができる。

（生徒のニーズや興味の把握）

- ・ 生徒が現在興味や関心を持っている話題について、アンケート調査などで調べる。
- ・ 生徒が英語を勉強する動機や到達目標について、アンケート調査などで調べる。
- ・ 生徒の学力レベルを授業観察、小テスト、定期テストなどから把握する。

（各自のニーズや興味に合ったタスクや活動の提示）

- ・ 生徒が各自の興味に基づいてテーマを選択できるような活動（例：スピーチのテーマを3つから1つ選ぶ）を取り入れる。
- ・ 生徒が各自の学力別（基礎・標準・応用）に選択できるワークシートを準備する。
- ・ 生徒の英語学習動機や到達目標に合った活動を準備する。（例：「昨日したことについて、1分間会話を続けること」が短期目標である場合、音読、同時読み、シャドーイングの活動を提示し選択させる。）

*生徒のニーズ（項目3, 29, 34, 40, 49, 54を参照）

88. 生徒が自分の学習過程や学習成果を自己評価できるように支援できる。

（学習過程の自己評価の支援）

- ・ 学期の初めに立てた計画どおりに学習が遂行できているか、学習過程を自己モニターするために、学習記録をつけさせる。
- ・ 定期的に（1か月に1回など）各自の学習記録を点検させ、学習計画を達成していなければ修正させる。

（学習成果の自己評価の支援）

- ・ 学習成果は、テスト結果のみならず、学習記録、提出物などをポートフォリオとして保存させ、学期の初めに立てた目標及び学習計画を達成できているか振り返らせる。
- ・ 学習成果を点検し、学習目標及び学習計画を達成していなかった場合には、その理由と改善点について書かせ、提出させる。

B. 宿題

89. 生徒にとって最も適した宿題を選択できる。

（生徒に最も適した宿題）

- ・ 語彙の定着を図る宿題を出す。（例：単語練習、語句を用いた英作文）
- ・ 授業で扱った内容の定着を図る宿題を出す。（例：教科書の音読・暗唱、教科書の本文の写し、授業で扱った文法事項の練習問題）
- ・ 授業で扱った内容を発展させ、発話につなげる宿題を出す。（例：教科書本文を活用したスキットの作成、スピーチやshow & tellの原稿作成や練習）

- ・ 学習習慣を身につけるための宿題を出す。(例：テレビやラジオ講座を視聴、英語日記、自由学習ノートで英語に関する勉強。)
- ・ 生徒に負担にならない宿題の量に配慮する。(例：20～30分程度で終える宿題を出す。)

90. 生徒が自主的に宿題を進めるのに必要な支援を行ない、学習時間の管理の手助けができる。

(生徒が自主的に宿題を進めるのに必要な支援)

- ・ 宿題の目的を明確にする。(例：単語の宿題を出した際に、語彙の定着を図ることが目的であることを生徒に伝える。)
- ・ 宿題のプリント・ノートなどを提出させ、内容についてコメントをする。コメントを書くことにより、生徒のやる気を喚起する。
- ・ 宿題の提出状況が悪い場合、口頭あるいはアンケートなどで、その理由を生徒に尋ねる。

(学習時間の管理の手助け)

- ・ 宿題をするのに、どれだけ時間がかかったか記録し報告させる。
- ・ 学習習慣を身につけるための宿題を出した場合、学習時間を記録し報告させる。(例：学習時間が分かるように1時間ずつマス目を塗りつぶし、1週間、1ヶ月間の各自の英語学習時間が分かるようにする。)
- ・ クラスの英語学習時間(平均時間など)を定期的に(1か月に1回など)示し、各自の学習時間の量を振り返らせる。

91. 妥当で明確な基準に基づいて宿題を評価できる。

- ・ 宿題の内容や種類により、宿題をしたか、していないかのチェックだけでよいもの、内容を確認するもの、小テストなどで定着度を図るもの、コメントを書いて次に生かすものなどに分けて評価する。
- ・ 教科書音読・暗唱の宿題を出した場合、観点を明確にして授業で評価する。(観点例：適切な音量で音読する。適切なイントネーションで音読する。聴き手に内容を伝える。)
- ・ 単語練習の宿題を出した場合、定着しているかどうか授業で単語テストを行う。(例：ペアで意味確認テストを行い、1分以内にどれぐらいの数の単語の意味を言えるか確認する。個人での単語書き取りテストを行い、書き取れる単語の数を確認する。)

C. バーチャル学習環境

92. インターネットなどのICT を活用でき、生徒にも適切に指導できる。

- ・ 習熟度の異なる学習者について、機器使用で指導内容を異なるものにしようとしている。
- ・ 授業外の補習を、機器を使って学習させようとしている。
- ・ 授業中に個別学習をさせるときに、インターネットやeラーニングなどの機器を使わせている。
- ・ 授業外で個別学習をさせるときに、インターネットやeラーニングなどの機器を使わせている。

VII 評価

A. 測定法の考案

93. 授業の目的に応じて、筆記試験、実技試験などの評価方法を選択できる。

- ・ 年度当初に、使用する教科書で、学習者に対して年間を通してどのような能力を養成するかを考え、その能力の養成はどのような形式で評価すべきか考える。
- ・ 各学期の前に、使用する教科書で、学習者に対してこの学期を通してどのような能力を養成するかを考え、その能力の養成はどのような形式で評価すべきか考える。
- ・ 授業の前に、使用する教科書で、学習者に対してこの授業を通してどのような能力を養成するかを考え、その能力の養成はどのような形式で評価すべきか考える。

94. 生徒の授業への参加や活動状況を評価する方法を考慮できる。

- ・ 学習者が授業へ参加する態度を評価するために簡単な評価やコメントを名簿や座席表に書きこんで利用することを考える。

B. 評価

95. 生徒の英語運用力が向上するように、本人の得意・不得意分野を指摘できる。

- ・ 本人の得意・不得意分野を指摘できるように、授業を受け持ったら、できるだけ早く学習者の顔と名前が一致するように心がける。
- ・ 座席表や個人別カードなどを利用し、授業中に学習者のできたところとできないところをチェックしておく。
- ・ 小テストで間違えたところを学習者に必ず確認させるようにしている。
- ・ 定期テストで間違えたところを学習者に必ず確認させるようにしている。

96. 学習者や保護者などにわかりやすい形式で生徒の出来栄や進歩を記述できる。

- ・ 学習成果の伸びを図表やグラフで示せるように、学習者の評価をコンピュータで管理している。

97. 生徒の学習の伸びを信頼性のある適切な方法で評価し、その結果を図表やグラフなどわかりやすく表示できる。

- ・ 学習の伸びを妥当性のあるテストで評価しようとしている。

C. 言語運用

98. 話したり書いたりする能力を適切に評価できる。

- ・ 適切に評価するために、自分の話したり書いたりする能力を常に向上させるように努めている。
- ・ 適切に評価するために、チェックリスト、Can-doリストやポートフォリオを作成して

いる。

D. 国際理解

99. 日本の文化と英語圏の文化を比べ、その相違への生徒の気づきを評価できる。

- ・ 英語圏文化の学習を心掛けている。
- ・ 英語圏文化についての指導を心掛けている。
- ・ 日本の文化と英語圏の文化の違いを学習者が認識できるような授業を心掛けている。
- ・ 日本の文化と英語圏の文化の違いの受容を学習者が積極的に行おうとする態度を評価する。
- ・ 日本の文化と英語圏の文化の違いの発表を学習者が積極的に行おうとする態度を評価する。

E. 誤答分析

100. 生徒の誤りを分析し、建設的にフィードバックできる。

- ・ 生徒が間違いをおかしたときに間違いを責めるのではなく、生徒を成長させるように努めている。
- ・ 生徒の誤りに遭遇した時に、その原因を語彙面、文法面など語法的に探ろうとしている。
- ・ 生徒が発表する時の間違いで、文法的には間違っているかもしれないが意図は伝わる些細な（ローカル）エラーと意図が伝わらない致命的な（グローバル）エラーについて、指導を区別している。

Glossary

ALT (Assistant Language Teacher) The Japan Exchange and Teaching Program (JET Program)によって雇用される外国語母語話者

disfluency 発話中に言いよどむ現象であるが、気づかれないような軽度の場合から理解不能に至るまで幅があり、ほとんど誰でも時と場合により **disfluency** になることがある。

Filler words (uhm, er, like など) の使い過ぎも一種の **disfluency** である。

E-pal 電子メールによる文通友達

recast 不完全な発話を受けて、親あるいは教師が文法的に正しく言い直すことで、**corrective recast** あるいは **implicit negative feedback** ともいう。語句を添えて文章を完成させたりする **expansion** も広義の **recast** に含める場合がある。

show & tell 生徒に級友を前にして、持参したものを見せて英語で説明させる指導技術。

small talk 英語の **small talk** は、日本語で言えば雑談、ゴシップ、よもやま話に相当するが、英語圏では円滑な人間関係の演出や日常の社会活動を効果的に行うためになくてはならないもので、社会言語学の基本的な分析単位である **speech event** の一種である。

TPR (Total Physical Response) 教師の与える指示に学習者が全身で反応することを求めるもので、言語活動と全身動作を連合させることが、その表現の定着に役立つという考え方。

YouTube 2005 年、米国カリフォルニアに設立された動画用ポータルサイト。サービス開始当初は無制限にアップロードできたが、現在は著作権問題やサーバーの負担を考慮して 15 分以内の動画しかアップロードできないことになっている。

アイコンタクト (eye contact) 教育学・心理学の視点から言えば、単なる物理的な視線接触を越えて、親と子、教師と生徒、人と人などの二者間で気持ちが通じ合うことの確かな指標となる。

ウィキペディア ウィキペディア(Wikipedia)財団が運営する多言語オンライン百科事典。無料で見るができるが、項目によっては必ずしも正確でない場合がある。

オーセンティック (authentic) 外国語教育では、自然な話し言葉・書き言葉の特質をもつ場合に使われる。教育において学習者のレベルによって語彙や文法等に制約が必要な場合、**authenticity** (自然さ) と **teachability** (learnability) (教えやすさ・学びやすさ) のどちらを優先させるかという問題が生じることがある。

オーラル・アプローチ (oral approach) **audio-lingual method** の別称で、行動主義学習理論と構造主義言語理論を中心とする言語習得理論の一つ。

音の同化 ある音が、語または文中において、それに隣接または近接する他の音に影響されて、それに類似した音やそれと同一の音に置き換えられる現象 (例: **newspaper** [vɒʊə:σπε̃ ι̃πE]では、**news** [vɒʊə:ζπε̃ ι̃πE]の[ζ]が後続の無声音[π]に影響されて[σ]になるような場合。ただしアメリカ英語では[v(ɸ)ʊəζπε̃ ι̃πE]が普通。また、**question** のように[-τɸ-]が[-τΣ-]Ωになる同化もある)。

音の連結 英語の場合は、通常、linking といい、母音接続を避けるための linking ‘r’（例：after all [ɑ̃(:)φτΕρχə:λ]、[Ã φτΕρχə:λ]の[p]）や、India office [IvδiρΕχ̃ φiσ]のような intrusive ‘r’ などがある。

学習スタイル (learning style) 学習活動または学習過程に認められる個人固有の特徴で、外から観察できるものだけでなく、内面的なものもあり、学習の個人差を質的にとらえる場合に重要である。

学習ストラテジー (learning strategies) 外国語教育では、学習している言語の意味、語用、文法などを理解するために意図的あるいは半ば意図的な行動を意味する。

観点別評価 日本では生徒の成績評価方法として、教科の成績を数値化して示す「評定」と「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」、「表現の能力」、「理解の能力」、「言語や文化についての知識・理解」（英語科の場合）のように 4 つの観点を基本として示す「観点別学習状況」という 2 つの評価法を採用している。

言語材料 学習指導要領でいう言語材料は、「音声」、「文字及び符号」、「語、連語及び慣用表現」、「文法事項」で構成されている。

キーワードのマップ 文章のキーワード相互の関係を図式化した場合の構造図

コミュニカティブ・ランゲージ・ティーチング (communicative language teaching)

言語教育の目標はコミュニケーション能力であることを強調する指導法。

実践的コミュニケーション 平成 10 年版の学習指導要領の目標には「実践的」がついていたが、平成 20 年版（小・中）、平成 22 年版（高）では、コミュニケーションは本来、実践的なものであるから削除された。

シャドーイング (shadowing) ネイティブの音声（肉声あるいは録音）を聞きながら、それを影（shadow）のように後から追いかけて口に出し、同じように発音する英語学習法で、もともとは通訳を目指す人々がよく使う訓練法。

情意フィルター (affective filter) (Krashen, 1984)の *The Natural Approach* で提唱された Affective Filter Hypothesis（情意フィルター仮説）によれば、言語習得は学習者の情意に影響され、不安、自信喪失のような負の感情は言語習得を妨げるというもの。

スキット (skit) 語彙、文法、機能(function)等を含んでいる新教材導入用寸劇

スキミング (skimming) 速読の一種で段落や文章の大意を把握するような読み方。scanning と対比される。

スキヤニング (scanning) 速読の一種で文章の中から特定の情報を探すような読み方。skimming と対比される。

スキヤフォルディング (scaffolding) 一般的には、生徒の学力を超えたタスクを行わせるとき生徒に与える支援であるが、言語学習においては適切かつ社会的・協働的な枠組みによって成果が左右されるという心理学者 Bruner の理論に基づく。

ストーリーテリング (storytelling) 学習手段として長い間、生徒の学習効果や情緒安定に役だつと考えられて、あらゆる年齢層に対応できることから、個々の生徒の表現性や思考・感情を正確・明瞭に伝える能力を養う目的で用いられ、近年、日本では小学校の教

育に応用されることも多い。

生徒のデータベース 生徒の定期試験、小テスト、授業観察結果など、生徒に関するデータを保存・管理するデータベース。

タスクベースト・アプローチ (task-based approach) 対人間のコミュニケーション・やりとりを通して課題(task)解決を求める指導法。Task-based language teaching とも言う。

ディクトグロス (dictogloss) 長めのまとまった文章を教師が普通の速さで数回読み、学習者が聞き取ったことを持ち寄り、グループで協力してテキストを復元させる活動。

トピックセンテンス (topic sentence) 段落のトピック (話題・主題) を表す文。

ニューズレター (newsletter) クラブや組織の活動・行事などを部 (会) 員に伝えるための定期的印刷物。

ビンゴ・ゲーム 司会者 (caller、授業では教師) が選んだ数字と同じビンゴ板上の数字を消していき、早く縦、横、または斜めに 5 つの数字を並べた人が勝つゲーム。英語教育では語彙学習の方法として利用する教師が多い。

ブレインストーミング (brainstorming) 各人が自由に発想を出し合う会議技術;1939 年、A. F. Osborne が米国の広告会社で初めて試みた。

マザーグース (Mother Goose) 英国古来のわらべ歌集。チャンツ (chants)やライム(rime / rhyme<単語または詩行の特に末尾部分の音が同一で、その直前の子音は異なること。例: ran-man, sword-cord など>)の練習に使われる。

マインドマップ マインドマップは、英国の教育者 Tony Buzan が開発した自然な形で脳の力を引き出す思考技術で、中心テーマから放射状にノートを取りながら関連要素を追加していくもので、日本国内では商標にもなっている。

ルーティン化 (routinization) 授業活動の手順や約束事に慣れさせて、学習者が活動内容に集中できるようにすること。

ロールプレイ (roleplay) 語学教育では、寸劇用のスキットの形を借りて、その登場人物に求められる言語行動 (すなわち役割<roles>) を行うことが多い。roleplaying ともいう。

.....

『言語教育履修生のためのポートフォリオ』

Japanese Portfolio for Student / Novice Teachers of Languages

発行日: 2012年2月25日

編集発行人: JACET 教育問題研究会 (代表: 久村研)

(編集担当: 高木亜希子)

URL: <http://www.waseda.jp/assoc-jacetenedu/>

- ・ 本ポートフォリオは、平成22 年度ー平成24 年度文部科学省科学研究費補助金 基盤研究(B) 研究課題番号22320112 (研究代表: 神保尚武) の研究補助費を受けて作成したものである。
- ・ 本書の一部あるいは全部を引用または複写複製する場合には、本書より引用したことをお断り下さい。